

2024（令和6）年度

薬学部履修要項



静岡県立大学

令和6年度 静岡県立大学年間授業予定表

2024年4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			2025年1月			2月			3月											
日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事	日	曜日	行事						
1	月	学年・前期開始	1	水	月3【変則】	1	土	土7	1	月	月11	1	木	木16	1	日		1	火	火1	1	金	金5	1	日		1	水	元日	1	土	土15	1	土		1	土		1	土		1	土	
2	火		2	木	木3	2	日		2	火	火12	2	金	金16	2	月		2	水	水1	2	土	土5	2	月	月8	2	木		2	日		2	日		2	日		2	日		2	日	
3	水	春期休業終了	3	金	憲法記念日	3	月	月7	3	水	水12	3	土	土16	3	火		3	木	木1	3	日	文化の日	3	火	火9	3	金		3	月	月15	3	月		3	月		3	月		3	月	
4	木	ガイダンス	4	土	みどりの日	4	火	火8	4	木	木12	4	日		4	水		4	金	金1	4	月	振替休日	4	水	水9	4	土		4	火	火16	4	火		4	火		4	火		4	火	
5	金	ガイダンス	5	日	こどもの日	5	水	水8	5	金	金12	5	月	月16	5	木		5	土	土1	5	火	午前月3【変則】 午後月4【変則】	5	木	木9	5	日	冬期休業終了	5	水	水16	5	水		5	水		5	水		5	水	
6	土		6	月	振替休日	6	木	木8	6	土	土12	6	火	火16	6	金		6	日		6	水	水6	6	金	金10	6	月	月12	6	木	木16	6	木		6	木		6	木				
7	日		7	火	火4	7	金	金8	7	日		7	水		7	土		7	月	月1	7	木	木6	7	土	土9	7	火	火12	7	金	金16	7	金		7	金		7	金				
8	月	ガイダンス	8	水	水4	8	土	土8	8	月	月12	8	木		8	日		8	火	火2	8	金	金6	8	日		8	水	水12	8	土	土16	8	土	入試中期※	8	土		8	土				
9	火	入学式	9	木	木4	9	日		9	火	火13	9	金		9	月		9	水	水2	9	土	土6	9	月	月9	9	木	木12	9	日		9	日		9	日							
10	水	水1	10	金	金4	10	月	月8	10	水	水13	10	土		10	火		10	木	木2	10	日		10	火	火10	10	金	金13	10	月	月16	10	月		10	月							
11	木	木1	11	土	土4	11	火	火9	11	木	木13	11	日	山の日	11	水		11	金	金2	11	月	午前月4 午後月5	11	水	水10	11	土	土13	11	火	建国記念の日	11	火		11	火							
12	金	金1	12	日		12	水	水9	12	金	金13	12	月	振替休日	12	木		12	土	土2	12	火	火6	12	木	木10	12	日		12	水		12	水	入試後期	12	水							
13	土	新入生 歓迎行事	13	月	月4	13	木	木9	13	土	土13	13	火	大学休業日	13	金		13	日		13	水	水7	13	金	金11	13	月	成人の日	13	木		13	木		13	木							
14	日		14	火	火5	14	金	金9	14	日		14	水	大学休業日	14	土		14	月	スポーツの日	14	木	木7	14	土	土10	14	火	火13	14	金		14	金		14	金							
15	月	月1	15	水	水5	15	土	土9	15	月	海の日	15	木	夏期休業開始 大学休業日	15	日	夏期休業終了	15	火	火3	15	金	金7	15	日		15	水	水13	15	土		15	土		15	土							
16	火	火1	16	木	木5	16	日		16	火	月13【変則】	16	金		16	月	敬老の日	16	水	水3	16	土	土7	16	月	月10	16	木	木13	16	日		16	日										
17	水	水2	17	金	金5	17	月	月9	17	水	水14	17	土		17	火		17	木	木3	17	日		17	火	火11	17	金	試験準備 (休講)	17	月		17	月										
18	木	開学記念日	18	土	土5	18	火	火10	18	木	木14	18	日		18	水		18	金	金3	18	月	午前月5 午後月6	18	水	水11	18	土	共通テスト※	18	火		18	火										
19	金	金2	19	日		19	水	水10	19	金	金14	19	月		19	木		19	土	土3	19	火	火7	19	木	木11	19	日	共通テスト※	19	水		19	水	学位記授与式									
20	土	土2	20	月	月5	20	木	木10	20	土	土14	20	火		20	金		20	日		20	水	水8	20	金	金12	20	月	月13	20	木		20	木	春分の日									
21	日		21	火	火6	21	金	金10	21	日		21	水	県民の日	21	土		21	月	月2	21	木	木8	21	土	土11	21	火	火14	21	金		21	金	春期休業開始									
22	月	月2	22	水	水6	22	土	土10	22	月	月14	22	木		22	火	秋分の日	22	日		22	火	火4	22	金	金8	22	日		22	水	水14	22	土		22	土							
23	火	火2	23	木	木6	23	日		23	火	火14	23	金		23	月	月1	23	土	勤労感謝の日	23	水	水4	23	土	土11	23	木	木14	23	日	天皇誕生日	23	日										
24	水	水3	24	金	金6	24	月	月10	24	水	水15	24	土		24	火		24	木	木4	24	日		24	火		24	金	金14	24	月	振替休日	24	月										
25	木	木2	25	土	土6	25	火	火11	25	木	木15	25	日		25	水		25	金	金4	25	月	午前月6 午後月7	25	水		25	土	土14	25	火	入試前期※	25	火										
26	金	金3	26	日		26	水	水11	26	金	金15	26	月		26	木		26	土	土4	26	火	火8	26	木		26	日		26	水		26	水										
27	土	土3	27	月	月6	27	木	木11	27	土	土15	27	火		27	金		27	日		27	水	水11	27	金		27	月	月14	27	木		27	木										
28	日		28	火	火7	28	金	金11	28	日		28	水		28	土		28	月	午前休講 午後月3	28	木	午前月7【変則】 午後休講	28	土	土12	28	火	火15	28	金		28	金										
29	月	昭和の日	29	水	水7	29	土	土11	29	月	月15	29	木		29	日		29	火	火5	29	金	推薦・帰国生徒 入試※	29	日	冬期休業開始	29	水	水15	29	土		29	土										
30	火	火3	30	木	木7	30	日		30	火	火15	30	金		30	月	前期終了	30	水	水5	30	土	土8	30	月		30	木	木15	30	日		30	日										
			31	金	金7				31	水	水16	31	土					31	木	木5				31	火		31	金	金15				31	月										
前期及び通年科目の履修登録(下旬まで)									TOEIC-IPテスト(初旬) 【対象者】 全学部の1, 2年生						後期科目の履修登録(中旬まで)												TOEIC-IPテスト(初旬) 【対象者】 全学部の1年生、 国際関係学部2年生																	

は休業日

赤字 は、主な行事、注意が必要な休講日、入構禁止日

※印の日は入試のため大学構内への入構制限あり。一般学生は入構できません。

は通常授業が行われない日

青字 は、変則日程

<目 次>

1 薬学部履修要項目次

(1)	履修要項について	1
(2)	履修細則<2024(令和6)年度以降入学者用>	10
(3)	履修細則<2022(令和4)年度~2023(令和5)年度入学者用>	15
(4)	履修細則<2018(平成30)年度~2021(令和3)年度入学者用>	20
(5)	履修細則<2016(平成28)年度~2017(平成29)年度入学者用>	25
(6)	2024(令和6)年度教養科目一覧	30
(7)	カリキュラム科目表<2024(令和6)年度以降入学者用>	32
(8)	カリキュラム科目表<2023(令和5)年度入学者用>	42
(9)	カリキュラム科目表<2022(令和4)年度入学者用>	46
(10)	カリキュラム科目表<2018(平成30)年度~2021(令和3)年度入学者用>	50
(11)	カリキュラム科目表<2016(平成28)、2017(平成29)年度入学者用>	54
(12)	英語科目評価表	57
(13)	実務経験のある教員による科目	59

2	教室別研究題目	62
---	---------	----

3	臨床検査技師国家試験関連科目	65
---	----------------	----

履修要項について

1 はじめに

この「履修要項」は、大学での授業の仕組みとその履修に必要な手続き等を、県立大学学則及び履修細則に従って解説したものである。授業の内容や事務上の手続きをよく知らなかったため学修に思わぬ支障を来すことのないよう、この「履修要項」を十分活用していただきたい。また、4月及び9月に行われるガイダンスには必ず出席し、不明な点は学生室教務担当又はアドバイザー教員に相談すること。授業に関する連絡やその他の注意事項は、薬学部棟学年別掲示板又はWeb学生サービス支援システム（ユニバーサルパスポート）に掲載されるので、必ず確認すること。

以下に単位制、授業科目、授業、履修申告、試験、成績評価、進級・卒業などについて記してあるので、熟読の上、今後の学修に役立ててほしい。

2 単位制

(1) 単位制とは

単位とは、一定の質の勉学ないし学修量を示す基準となるものである。大学で開講している各科目にはそれぞれ単位数が定められており、これらの科目を履修して合格すれば、単位が取得できることになっている。

本学における学修は、すべて単位数によってその達成度が測られ、進級及び卒業の可否が決定される。これが単位制である。

また、単位制では、履修年次と無関係に単位を取得できるのが本来の建前であるが、科目によっては、低学年次で修得しておかないと高学年次での履修に支障を来すことがある。そのため、本学部では、標準の履修課程を示し、これに沿って履修すれば学修効果が上がるように配慮してある。

(2) 単位と時間数

ア 授業は前期・後期の2学期に分けて実施され、原則15週をもって1学期、30週をもって1学年としている。

イ 1単位の履修時間は、教室の内外合わせて45時間である。したがって、1科目につき教室内外の3時間の学修を15週間行って1単位となる。ただし、本学部では、授業時間割の1時限を2時間とみなしている。科目の単位は次の基準によって定められている。

1単位の基準表

区 分	授業時間	自習時間	計
講 義	15	30	45
フレッシュマンイングリッシュ（IA、IB、IIA、IIB）、 身体運動科学	30	15	45
実験・実習・実技	45 ^{*1}	—	45 ^{*1}
演習	30	15	45

^{*1}臨床検査事前臨地実習、生理検査学に関する臨床検査臨地実習及び生理検査

学以外の臨床検査臨地実習は30時間とする。

以上のように1単位と計算される勉学の時間量は、講義だけでなく、学生の自学自習時間を含めて計算することになっている。したがって、学生の自主的勉学は、大学生生活の不可欠の要素として重視されている。

3 授業

(1) 授業を受ける心構え

授業は、学生各自の学修研究の基盤であり、学問的にも人間的にも深化を目指すものである。それは決して形式的な強制によって達成されるものではなく、各自の自主的な強い深い探求心によってこそ、所期の成果が達成できる。したがって、学修の過程において不正行為などしてはならない。もし、不正行為があれば、学則及び薬学部細則に照らし、厳しい措置がとられる。

(2) 学期

年次	前期	後期
1年次	1学期	2学期
2年次	3学期	4学期
3年次	5学期	6学期
4年次	7学期	8学期
5年次	9学期	10学期
6年次	11学期	12学期

年間の授業日数は、定期試験等の日数を含め35週にわたる。本学での授業は、15週にわたる期間を単位として、前期・後期の2学期制を採用している。また、多くの科目を順序よく履修し、学修効果を上げるため、薬科学科では4年間、薬学科では6年間の在学期間を左表のように区分し、年次別の標準履修課程を定めている。

(3) 授業時間

授業時間は、1時限90分とし、1日5時限に区切られている。

時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
時刻	9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

(4) 授業時間割

授業時間割表は、前・後期に分けて作成され、4月のガイダンスの際に配布される。

時間割は配布後変更する場合があるので、掲示に注意すること。

(5) 休講、補講、集中講義等

ア 休講等

休講、授業時間及び授業場所の変更は、掲示板及びWeb学生サービス支援システム（ユニバーサルサポート）に掲示されるので、注意すること。Web学生サービス支援システムには大学ホームページ URL <http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>から入れる。

休講の連絡がなく講義が行われない場合は、担当教員及び学生室教務担当へ確認すること。

イ 補講

夏期及び冬期休業中に補講を行うことがある。補講を行う場合には、掲示等により連絡をするので、日時・教室などを確認の上、補講に出席すること。

ウ 集中（隔週）講義

科目によっては、ある一定期間に集中して又は隔週で講義を行う。詳細については、掲示により連絡する。

(6) 授業を欠席する場合

病気・忌引き等やむを得ない事情により授業を欠席する場合は、事前に、又は事後に欠席届を提出する。

各講義を1回だけ欠席する場合（1週間以内の欠席）は、欠席届（短期）を次回授業出席時までには授業担当教員に提出する。2週間以上（同じ講義を2回以上）にわたって欠席する場合は、欠席届（長期）を学生室教務担当から受け取り提出する。

4 授業科目

(1) 授業科目の分類

授業科目はその性質により、次のように分類される。

ア 薬学共通課程

- ・ 教養科目
- ・ 基礎科目（外国語系科目、基礎自然科学系科目、保健体育系科目）
- ・ 共通専門科目
- ・ 共通専門実習科目

イ 学科専門課程

（ア）薬科学科

- ・ 薬科学科専門科目
- ・ 薬科学科専門実習科目

（イ）薬学科

- ・ 薬学科専門科目
- ・ 薬学科専門実習科目

(2) 授業科目の説明

本学部では教養科目、基礎科目及び専門科目に分けて授業科目が開設され、各学科の特徴を生かした教育が実施される。学生はそれぞれについて規定を満たすように履修しなければならない。

ア 教養科目

教養科目は、広い教養を与え、過度の専門化によって起こり得る偏りを除き、知識の調和を保ち総合的かつ自主的な判断を養うことを目的とするものである。そのために本学においては、全人的な教養を修得し得るように科目を配置してある。

イ 基礎科目

薬学部においては、学部独自の教育を目的として基礎科目と専門科目が配置され、その基礎科目は専門科目の履修に先立って修得し、専門科目の学修が円滑に進行するよう配慮されている。

（ア）外国語系科目

外国語は、読む・書く・聞く・話すという実用的な理由だけでなく、外国文化一般の知識を、原語を通じて学び、知性と感性の豊かさを高めることにも大きな意義がある。薬学部では、英語を必修としている。

（イ）基礎自然科学系科目

薬学部の専門科目の理解を容易にするために、物理学、化学、生物学の基礎を修得すること

が求められる。基礎自然科学系科目として、基礎化学、物理学、数学、情報科学が配置されている。生物学に関しては、教養科目群の中から選択し概論として学習することができる。共通専門実習科目、学科専門実習科目をより効果的に履修することを目的として数理的、また、実験計画的な思考能力を修得するために数学を履修する。

(ウ) 保健体育系科目

心身共に健康であることは、学生にとって、また社会生活や家庭生活を営む上でも欠くことができない。したがって、保健体育は重要で薬学部では身体運動科学として必修とし、健康の保持・増進のために必要な知識の修得と実技の訓練により、健康で明朗な人間づくりを目指している。

ウ 専門科目（共通専門科目、薬科学科専門科目・薬学科専門科目）

薬学における専門教育では、①人の健康保持・増進と加齢並びに性差、②その過程でおきる疾病・障害等に関する物質・刺激と生体反応に関する事象とその医療並びに衛生に関すること、③医薬品の化学、有効なドラッグデザインとその生産等いわゆる創薬に関することを学ぶ。薬学の学問は体系的な積み上げを必要とする、いわば巨大な建築物のようなもので、順序よく学んだ者がより高度な問題を深く理解し、その発展に寄与することができる。また、専門科目の履修を通して、薬学が人類の生活を豊かにしてきた事実のほか、科学技術の進歩に伴って、環境破壊、産業公害、薬害、有害食品等の深刻な問題が発生している事実を考え、薬学に携わる者の責任の重要性を認識する。

エ 専門実習科目（共通専門実習科目、学科専門実習科目）

実習は、実験室で学生が自らの手で種々の科学事象を再現・観察・測定・記録し、それらを整理・総合することにより、科学的な知識・技能を養うことを目的としている。したがって、その目的は講義科目と異なり、実験室内での自己の体験を通じてのみ修得されるものである。総合薬科学研究及び総合薬学研究は、専門教育等で修得した知識・技能の整理集大成の意味を含んでいる。3年次後期に各分野（研究室）に分属して、担当教員の指導の下、卒業研究を行う。

(3) 必修・選択等による履修区分

授業科目は、進級・卒業の要件として履修する必要があるか否かにより次のように分類される。

ア 必修科目…必ず修得しなければならない科目

イ 選択科目…上記(2)の授業科目分類ごとに、指定された合計単位数を修得しなければならない科目（どの科目を履修するかは学生に任される）

ウ 自由選択科目…単位は認定されるが、卒業要件に含まれない科目

(4) 履修の順序

先の「単位制」の項で述べたとおり、単位制の建前からすれば、どの科目を先に履修するかは自由であるが、本学では、学生の負担と学修効果を考えて、教育効果が最も上がるようにカリキュラムを構築し、標準的な履修が次のように行われるよう配慮している。

第1～2学期	教養科目、基礎科目について、卒業に必要な単位数の4/5以上を修得するとともに、共通専門科目の一部を履修する。
第3～4学期	教養科目、基礎科目の修得を完了するほか、担当された共通専門科目を修得する。
第5～6学期	担当された共通専門科目及び各学科で担当された学科専門科目を修得する。6学期から薬科学科は総合薬科学研究、薬学科は総合薬学研究を開始する。
第7～8学期	各学科で担当された学科専門科目を修得し、薬科学科は総合薬科学研究、薬学科は総合薬学研究を継続して行う。
第9～12学期 (薬学科のみ)	薬学科専門科目を履修するとともに、総合薬学研究、薬剤師国家試験受験資格に必要な病院実務実習、薬局実務実習を行う。

(5) 上位年次科目の履修

学生は、基本的に自分が所属する学年次以下に担当された科目を履修すること。

しかし、8-(3)の基準により進級できなかった学生は、留年年次担当科目の確実な履修を優先するという前提で14単位を限度に、上位年次担当科目の履修を申請することができる。ただし、前期又は後期のいずれかのみで8単位を超えて履修してはならない。希望者は、学生室教務担当から用紙を受け取り、授業担当教員の承認を得た上で、授業開始後2週間以内に学生室教務担当に提出すること。

(6) 他学部科目の履修

他学部の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の承認を得た上で、学生室教務担当から用紙を受け取り、授業開始後2週間以内に学生室教務担当に願出すること。

5 履修申告

(1) 履修登録の意味

履修しようとする授業科目については、所定の手続きに従って履修登録をしなければならない。

この履修登録を怠ると、たとえ授業に出席し、十分に学修したという実績があったとしても、単位を取得することができない。

(2) 履修登録の時期及び方法

履修登録は、各学期のはじまる4月と10月に、「Web 学生サービス支援システム」により行う。システムへの登録期間は授業開始後2週間以内とする。

(3) 履修登録の注意事項

- ①同一時間に2科目以上の科目を重複して履修登録することはできない。
- ②既に単位を修得した授業科目は、履修することはできない。
- ③施設上又は教育上やむを得ないと認められる場合は、履修登録の事前又は事後に履修者を制限する場合がある。
- ④クラスが指定されている場合は、それによって登録すること。
- ⑤登録した授業を変更したい場合は、履修登録確認期間（期間は別途掲示）の間に行うこと。
- ⑥前年度単位取得できなかった場合、次年度に当該科目の履修登録を再度行うこと。

⑦前年度単位取得できなかった科目において、出席の要件を満たし、定期試験の受験が認められた学生は、当該年度の履修登録の際に授業時間帯が重なっている科目がある場合、システムへの登録は学生室で行うので必ず学生室へ申し出ること（この場合は同時間帯に2科目の履修登録が可能となる）。

(4) 他学部の授業科目の履修

他学部の授業科目を履修しようとするときは、当該授業科目の担当教員の承認を得なければならない。

所定の書式（用紙は学生室で受領するか、「Web 学生サービス支援システム」からダウンロードすること）により、授業開始後2週間以内に学生室教務担当へ申し出ること。ただし、他学部の授業科目は、卒業必要単位数に算入することはできない。

6 試験

(1) 試験とは

大学は、学修の効果を測定するために学生の履修した授業科目について、試験の上単位を与える。

試験は、筆記による場合が最も多いが、授業担当教員の判断により、レポートあるいは口頭試問、実技テストのように他の方法により評価を決定する場合もある。また、授業への取り組みやその他平素の成績も評価を判定する資料となる。なお、出席状況については、授業回数の2/3以上の出席がないと試験を受験することができないので、注意すること。

(2) 試験の種類

ア 定期試験

定期試験は、各学期の終了時（7～8月及び2月）に2週間にわたり実施される。通年科目は、授業終了時のみ1回の試験で行うことがある。定期試験時間割は、原則として試験開始の10日前に掲示により発表される。発表後に変更されることがあるので、掲示板に注意すること。

イ 随時試験

定期試験期間以外に授業中あるいは特別な時間を設けて随時に試験を実施することがある。この場合、授業や掲示等で伝達されることが多いので、聞きもらしや見落しのないように注意すること。

ウ 追試験

次の理由で試験を欠席した者については、追試験を願い出ることができる。

- (ア) 病気（ただし、医師の診断書を要する）
- (イ) 忌引（1・2親等に限り、死亡の日から1週間以内）
- (ウ) 就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）
- (エ) その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

なお、軽微な風邪等は、正当な理由と認められないので注意すること。

追試験を受けようとする者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に、学生室教務担当から追試験願を受け取り、欠席の事由を詳記し、医師の診断書又はその事由を証明する書類を添付し、学生室教務担当に届け出ること。

エ 再試験

定期試験の結果が不可又は不合格となった場合に、なお当該科目を修得したい者は、再履修するのが原則である。しかし、やむを得ない事情により授業科目担当教員が再試験の必要を認める場合には、これを行うことがある。

(3) 受験上の注意

試験場内では、すべて監督者の指示又はあらかじめ指示されている事項に従わなければならない。定期試験の受験方法は次のとおりである。

本学学生らしく正々堂々と受験し、かりそめにも不正行為などしてはならない。

ア もし、不正行為があれば、学則及び薬学部細則に照らし、懲戒する。

イ 受験時の座席については、特に指示がない場合は、一つ置きに着席すること。

ウ 試験時は、使用が認められている物だけを机の上に置き、それ以外の持ち物は収納すること。

エ 机の上に学生証を置くこと。学生証のない者は受験できないので注意すること。

オ 学生証を忘れた者は、学生室教務担当から定期試験仮受験票の発行を受け、机の上に置くこと。

カ 原則として試験開始時刻から 30 分を過ぎた場合は、試験場への入室を認めない。

7 学修の評価

(1) 学修の評価

本学における学修評価は、履修細則及び担当教員の評価方針により、試験、レポート、授業出席状況などにおける学生の学修実績に基づき、「秀・優・良・可・不可」又は「合格・不合格」の評語で表現される。

評価の基準点数

秀	優	良	可	不可
90点以上	80～89点	70～79点	60～69点	59点以下

(2) 成績の発表

①いずれの試験も原則として担当教員が合否結果を薬学部棟学年別掲示板に発表する。

②成績通知は、原則として毎年10月と4月に学生に「Web 学生サービス支援システム」にて行う。

8 進級・卒業・留年

(1) 修業年限と在学年限

本学薬学部の修業年限は薬科学科4年、薬学科6年と定められている。

在学期間は、薬科学科においては8年を超えることはできない。また、薬学科においては4年次までで8年を、5～6年次で4年を超えることはできない。ただし、この中に休学期間は算入されない。

(2) 進級・留年

単位制がとられているので、一定数の単位を取得すれば卒業することができる。しかし、本学部は単位制の建前をとりながらも、学期・学年別の標準履修課程を定めている。また、3年次進級要件、4年次進級要件、5年次進級要件、6年次進級要件、及び卒業要件が定められている。したがって、3～6年次進級要件、及び卒業要件を満たすことができない者は留年となる。

なお、薬科学科4年次、薬学科6年次において卒業要件を満たさず留年した者は、年度途中にその要件を満たした場合、卒業できることがある。

(3) 進級要件

2年次以降、次の年次に進級するためには、履修細則に定める在学年数及び単位取得の条件を満たさなければならない。

(4) 総合薬科学研究及び総合薬学研究

3年次後期から薬科学科の学生は総合薬科学研究を、また薬学科の学生は総合薬学研究を履修しなければならない。

(5) 卒業要件

卒業するためには、薬科学科は4年間以上、薬学科は6年間以上在学し、履修細則に定める単位を修得しなければならない。

9 その他

(1) 履修に困った場合

単位は、それぞれ配当された学年で修得するのが望ましいが、修得できなかった場合、次年度に再履修することになる。

再履修する科目がその年度の必修科目と授業時間が重なる場合も出てくるが、その場合、他の科目の履修をもって再履修すべき科目の単位に読み替える扱いがされる場合があるので、学生室教務担当もしくはアドバイザー教員に相談すること。

なお、年度始めに上記に関する掲示がされることがあるので、掲示板は登下校の度に必ず確認すること。外国語科目及び身体運動科学に関して、上記の取扱を受けたい時は学生室教務担当に申し出ること。

(2) 掲示について

学生に対する連絡・伝達は、すべて掲示により行う。**掲示板は、大学と学生を結ぶ重要な伝達手段であるから、見落としのないようにすること。**

なお、一度掲示されたものは学生が承知したものと見なされ、掲示を見なかったからという理由で事後に異議などを申し立てることは一切できない。

掲示板は、全学向けのものがはばたき棟横に、薬学部独自のものが薬学部棟各階に設置されている。また、学部ホームページ内に電子掲示板が設置されている。原則として事務局からの連絡は、

はばたき棟横の掲示板及び「Web 学生サービス支援システム」に、教員からの連絡は、薬学部棟の掲示板又は「Web 学生サービス支援システム」に掲示される。

10 学生相談等

(1) クラス制度

本学部では、各学年に3年次まで約60人の学生を単位としてクラスが編成されており、これは授業・実習を行う際の教務上の組分けとなっている。

(2) アドバイザー制度

本学部では、1年次から3年次前期までは学生の指導・助言に当たるものとして専任教員がアドバイザーとして任命されている。アドバイザー教員は、所属する研究室を基本単位として、一定数の学生の専属のアドバイザーとして1～3年次を通じてその任に当たる。

研究室は教員と学生及び学生相互の人的交流の場としての役割を果たす。また、大学における教育活動、学生生活等に関する事項を学生に伝達し、周知を図る場にもなる。アドバイザーの教員は、学生個人の相談に応じ、修学や進路等の学生生活全般の事柄について適切な指導や助言を与える。また、学生の意見を十分に聞いてこれを理解し、大学の運営に資するため、関係機関の教職員に連絡・進言する職務にも当たる。

卒業研究に当たる「総合薬科学研究」及び「総合薬学研究」のための研究室配属先については、3年次前期終了時における学生の自由意思（一部成績が加味される）が尊重される。研究室配属後は、配属先の教員がそのアドバイザーの任に当たる。

ア 休学及び復学

病気その他やむを得ない理由により2か月以上修学が困難な場合は、アドバイザー又は指導教員の承認を得た上で所定の休学願を学生室教務担当に提出し、許可を得れば1年以内に限り休学が認められる。

なお、病気による休学の場合は、医師の診断書を添付することが必要である。特別の事由がある場合は、更に1年を限度として休学を延長することができる。休学期間は通算して3年を超えることはできない。

休学事由が消滅したとき（休学の期間内でもよい）は、復学願を提出し許可を得れば学業に復することができる。この場合には、病気であれば医師の治癒認定の診断書を添付する必要がある。

イ 退学

病気その他の事情により学業継続が困難となり、退学しようとするときは、アドバイザー又は指導教員の承認を得た上で所定の退学願を学生室教務担当へ届け出なければならない。事情によっては、大学が問題解決の援助ができる場合があるので、あらかじめ担当教員又は学生室に相談すること。

ウ 学期途中の休・退学の場合、授業料は還付されないので、注意すること。

また、休・退学の申し出が遅れた場合は、授業料が徴収されることがあるので、併せて注意すること（「学生便覧」参照のこと）。

薬学部履修細則

第1章 目的

（目的）

第1条 薬学部授業科目の履修方法その他学生の学修に関しては、静岡県立大学学則及び本細則に定めるものとする。

第2章 授業科目及び履修方法

（開設授業科目）

第2条 開設する授業科目及び単位数は、学則第42条に定めるとおりとする。

（授業科目の履修方法・登録）

第3条 学生は、授業開始後2週間以内にその学期において履修しようとする授業科目を所定の方法（Web 学生サービス支援システムによる履修登録）により申告しなければならない。

2 履修登録はWeb 学生サービス支援システムにより申告する。

（履修登録の変更）

第4条 履修登録の変更は、登録期限後決められた期限内に限り認める。

2 前項の変更は、所定の様式により学生室教務担当に届け出なければならない。

（同一時間重複履修の禁止）

第5条 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することができない。重複して申告したときは、そのいずれも無効となる。

（既修得授業科目の再履修）

第6条 既に単位を取得した授業科目は、履修することができない。

（配当年次）

第7条 各授業科目の配当年次は、本細則別表に掲げる。

（教養科目の履修単位）

第8条 教養科目の修得必要単位数は8単位以上とする。

2 平成27年度から「地（知）の拠点整備事業」採択により、新たに設けた「しずおか学」科目群については、卒業までに最低2単位履修すること。

3 令和6年度から新たに設けた「数理・データサイエンス AI 入門」については、2年次までに1単位履修すること

（基礎科目の履修単位）

第9条 基礎科目の修得必要単位数は次のとおりとする。

必修科目：22単位

(共通専門科目の履修単位)

第10条 共通専門科目の修得必要単位数は次のとおりとする。

薬科学科：講義 70 単位

薬 学 科：講義 70 単位

(学科専門科目の履修単位)

第11条 各学科の学科専門科目（薬科学科専門科目及び薬学科専門科目）の修得必要単位数は次のとおりとする。

薬科学科：講義 10 単位（薬科学科専門科目）

薬 学 科：講義 35 単位（薬学科専門科目）

(実習の履修単位)

第12条 各学科の実習単位数は次のとおりとする。

薬科学科：実習 22 単位（共通専門実習科目及び薬科学科専門実習科目）

薬 学 科：実習 59 単位（共通専門実習科目及び薬学科専門実習科目）

(単位の修得)

第13条 授業科目の単位の修得は、担当教員の認定による。

2 単位を修得するためには、その授業科目を履修し、且つ試験に合格しなければならない。

第3章 試験及び成績評価

(成績評価)

第14条 成績評価は、6割以上を合格とする。

2 特別実習、セミナー、その他授業科目の性質により前項の基準によりがたいものについて、その学修成果は、合格、不合格の2段階で評価することができる。

3 履修を申告し、単位を修得しなかった授業科目は、不可と判定する。

(単位認定報告書の提出)

第15条 担当教員は、試験終了後2週間以内に成績の評価を単位認定報告書に記入し学生室教務担当に提出する。

(追試験)

第16条 次の理由で定期試験を欠席した者について、追試験を行うことができる。

(1) 病気（ただし、医師の診断書を要する）

(2) 忌引（1・2親等に限り、死亡の日より1週間以内）

(3) 就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

(4) その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

上の事情により追試験を希望する者は、定期試験の当該科目試験終了の日から1週間以内に、所定の様式により学生室教務担当に届け出なければならない。

(再試験)

第17条 成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しては、原則として再試験は行わない。ただし、やむを得ない事情により授業担当教員が再試験の必要を認める場合は、これを行うことができる。

2 再試験を希望する者は、所定の様式により授業担当教員に届け出なければならない。

(不正行為)

第 18 条 学修の過程（講義への出席、レポート作成、試験など）において不正行為を行った者には、当該科目のほか、当該学期での全科目について、その年度の単位を与えないなどの処分を行う。さらに学則第 57 条第 1 項に基づき懲戒処分を行うことがある。

(再履修)

第 19 条 前期又は前年度において単位を修得できなかった授業科目については、後期又は後年度において再び履修して単位の修得を図ることができる。

第 4 章 進級要件等

(3 年次進級要件)

第 20 条 3 年次に進級するためには、2 年間以上在学し、下表のとおり教養科目 8 単位以上、及び 1～2 年次に開講されている全ての基礎科目、共通専門科目（必修科目）、学科専門科目（必修科目）、共通専門実習科目を修得しなければならない。

学科	教養科目（8 単位以上）			基礎科目	共通専門科目	共通専門実習科目	学科専門科目	学科専門実習科目	合計
	必修科目	選択科目	しずおか学						
薬科学科	1 単位	5 単位以上	2 単位以上	20 単位	59 単位	9 単位	—	—	96 単位以上
薬学科							2 単位	1 単位	99 単位以上

(注 1) 実習は所定年次において修得するものとする。

2 上記進級要件に必要な共通専門科目（必修科目）および学科専門科目（必修科目）のうち、単位未修得の科目が 2 科目以下である学生に対して、授業への出席要件を満たし試験を受験して不合格であった場合、条件付きで仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(4 年次進級要件)

第 21 条 4 年次に進級するためには、3 年間以上在学し、下表のとおり 1～3 年次に開講されている科目を修得しなければならない。

学科	教養科目（8 単位以上）			基礎科目	共通専門科目	共通専門実習科目	学科専門科目	学科専門実習科目	合計
	必修科目	選択科目	しずおか学						
薬科学科	1 単位	5 単位以上	2 単位以上	22 単位	70 単位	12 単位	—	—	112 単位以上
薬学科							19 単位	1.5 単位	133.5 単位以上

(注 1) 実習は所定年次において修得するものとする。

(注 2) 学科専門科目（選択科目）については、薬科学科で 2 単位以上、薬学科で 2 単位以上当該学年中に修得することを推奨する。

2 上記進級要件に必要な共通専門科目（必修科目）および学科専門科目（必修科目）のうち、単位未修得の科目が 2 科目以下である学生に対して、授業への出席要件を満たし試験を受験して不合格であった場合、条件付きで仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(薬学科5年次進級要件)

第22条 5年次に進級するためには、4年間以上在学し、下表のとおり1～4年次に開講されている科目を修得しなければならない。

学科	教養科目(8単位以上)			基礎科目	共通専門科目	共通専門 実習科目	学科専門科目	学科専門 実習科目	合計
	必修科目	選択科目	しずおか学						
薬学科	1単位	5単位以上	2単位以上	22単位	70単位	12単位	31単位	4.5単位	147.5単位 以上

(注1) 実習は所定年次において修得するものとする。

(注2) 薬学科専門科目(選択科目)については4単位以上を、当該学年までに修得することを推奨する。

2 上記進級要件に必要な薬学科専門科目(必修科目)のうち、単位未修得の科目が2科目以下である学生に対して、授業への出席要件を満たし試験を受験して不合格であった場合、条件付きで仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(薬学科6年次進級要件)

第23条 6年次に進級するためには、5年間以上在学し、下表のとおり1～5年次に開講されている科目を修得しなければならない。

学科	教養科目(8単位以上)			基礎科目	共通専門科目	共通専門 実習科目	学科専門科目	学科専門 実習科目	合計
	必修科目	選択科目	しずおか学						
薬学科	1単位	5単位以上	2単位以上	22単位	70単位	12単位	31単位	24.5単位	167.5単位 以上

2 上記進級要件に必要な2つの薬学科専門実習科目のうち、どちらかひとつの科目を未修得である学生に対して、一定の条件を満たせば仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(総合薬科学研究及び総合薬学研究)

第24条 3年次後期から薬科学科の学生は総合薬科学研究を、また薬学科の学生は総合薬学研究を履修しなければならない。

(病院実務実習等)

第25条 薬学科の学生は、4年次2月あるいは5年次5月から薬局実務実習及び病院実務実習を履修しなければならない。

(卒業要件)

第 26 条 卒業するための要件は下表のとおり。

2 卒業・留年の判定は教授会の議を経る。

学科	教養科目 (8単位以上)			基礎科目	共通専門科目	共通専門 実習科目	学科専門科目	学科専門 実習科目	合計
	必修科目	選択科目	しずおか学						
薬科学科	1単位	5単位以上	2単位以上	22単位	70単位	12単位	10単位以上	10単位	132単位 以上
薬学科							35単位以上	47単位	194単位 以上

附則

- 1 この細則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 令和5年以前に入学した者については、この細則にかかわらず、旧履修細則を適用する。
- 3 この細則によりがたい特別の事情があると認められる事項については、教授会の議によるものとする。

〈2022（令和4）年度～2023（令和5）年度入学生用〉

薬学部履修細則

第1章 目的

（目的）

第1条 薬学部授業科目の履修方法その他学生の学修に関しては、静岡県立大学学則及び本細則に定めるものとする。

第2章 授業科目及び履修方法

（開設授業科目）

第2条 開設する授業科目及び単位数は、学則第42条に定めるとおりとする。

（授業科目の履修方法・登録）

第3条 学生は、授業開始後2週間以内にその学期において履修しようとする授業科目を所定の方法（Web 学生サービス支援システムによる履修登録）により申告しなければならない。

2 履修登録はWeb 学生サービス支援システムにより申告する。

（履修登録の変更）

第4条 履修登録の変更は、登録期限後決められた期限内に限り認める。

2 前項の変更は、所定の様式により学生室教務担当に届け出なければならない。

（同一時間重複履修の禁止）

第5条 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することができない。重複して申告したときは、そのいずれも無効となる。

（既修得授業科目の再履修）

第6条 既に単位を取得した授業科目は、履修することができない。

（配当年次）

第7条 各授業科目の配当年次は、本細則別表に掲げる。

（教養科目の履修単位）

第8条 教養科目の修得必要単位数は8単位以上とする。

2 平成27年度から「地（知）の拠点整備事業」採択により、新たに設けた「しずおか学」科目群については、卒業までに最低2単位履修すること。

（基礎科目の履修単位）

第9条 基礎科目の修得必要単位数は次のとおりとする。

必修科目：22単位

(共通専門科目の履修単位)

第 10 条 共通専門科目の修得必要単位数は次のとおりとする。

薬科学科：講義 70 単位

薬 学 科：講義 70 単位

(学科専門科目の履修単位)

第 11 条 各学科の学科専門科目（薬科学科専門科目及び薬学科専門科目）の修得必要単位数は次のとおりとする。

薬科学科：講義 10 単位（薬科学科専門科目）

薬 学 科：講義 35 単位（薬学科専門科目）

(実習の履修単位)

第 12 条 各学科の実習単位数は次のとおりとする。

薬科学科：実習 22 単位（共通専門実習科目及び薬科学科専門実習科目）

薬 学 科：実習 58 単位（共通専門実習科目及び薬学科専門実習科目）

(単位の修得)

第 13 条 授業科目の単位の修得は、担当教員の認定による。

2 単位を修得するためには、その授業科目を履修し、且つ試験に合格しなければならない。

第 3 章 試験及び成績評価

(成績評価)

第 14 条 成績評価は、6 割以上を合格とする。

2 特別実習、セミナー、その他授業科目の性質により前項の基準によりがたいものについて、その学修成果は、合格、不合格の 2 段階で評価することができる。

3 履修を申告し、単位を修得しなかった授業科目は、不可と判定する。

(単位認定報告書の提出)

第 15 条 担当教員は、試験終了後 2 週間以内に成績の評価を単位認定報告書に記入し学生室教務担当に提出する。

(追試験)

第 16 条 次の理由で定期試験を欠席した者について、追試験を行うことができる。

(1) 病気（ただし、医師の診断書を要する）

(2) 忌引（1・2 親等に限り、死亡の日より 1 週間以内）

(3) 就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

(4) その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

上の事情により追試験を希望する者は、定期試験の当該科目試験終了の日から 1 週間以内に、所定の様式により学生室教務担当に届け出なければならない。

(再試験)

第 17 条 成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しては、原則として再試験は行わない。ただし、やむを得ない事情により授業担当教員が再試験の必要を認める場合は、こ

れを行うことができる。

2 再試験を希望する者は、所定の様式により授業担当教員に届け出なければならない。

(不正行為)

第18条 学修の過程（講義への出席、レポート作成、試験など）において不正行為を行った者には、当該科目のほか、当該学期での全科目について、その年度の単位を与えないなどの処分を行う。さらに学則第57条第1項に基づき懲戒処分を行うことがある。

(再履修)

第19条 前期又は前年度において単位を修得できなかった授業科目については、後期又は後年度において再び履修して単位の修得を図ることができる。

第4章 進級要件等

(3年次進級要件)

第20条 3年次に進級するためには、2年間以上在学し、下表のとおり教養科目8単位以上、及び1～2年次に開講されている全ての基礎科目、共通専門科目（必修科目）、学科専門科目（必修科目）、共通専門実習科目を修得しなければならない。

学科	教養科目	基礎科目	共通専門科目 (必修科目)	学科専門科目 (必修科目)	共通専門実習科目	合計
薬科学科	8単位以上	20単位	59単位	—	9単位	96単位以上
薬学科	8単位以上	20単位	59単位	2単位	9単位	98単位以上

(注1) 実習は所定年次において修得するものとする。

2 上記進級要件に必要な共通専門科目（必修科目）および学科専門科目（必修科目）のうち、単位未修得の科目が2科目以下である学生に対して、授業への出席要件を満たし試験を受験して不合格であった場合、条件付きで仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(4年次進級要件)

第21条 4年次に進級するためには、3年間以上在学し、下表のとおり1～3年次に開講されている科目を修得しなければならない。

学科	教養科目	基礎科目	共通専門科目 (必修科目)	学科専門科目 (必修科目)	共通専門実習科目	合計
薬科学科	8単位以上	22単位	70単位	—	12単位	112単位以上
薬学科	8単位以上	22単位	70単位	18単位	12単位	130単位以上

(注1) 実習は所定年次において修得するものとする。

(注2) 学科専門科目（選択科目）については、薬科学科で2単位以上、薬学科で2単位

以上当該学年中に修得することを推奨する。

- 2 上記進級要件に必要な共通専門科目（必修科目）および学科専門科目（必修科目）のうち、単位未修得の科目が2科目以下である学生に対して、授業への出席要件を満たし試験を受験して不合格であった場合、条件付きで仮進級を認めることがある。
- 3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

（薬学科5年次進級要件）

第22条 5年次に進級するためには、4年間以上在学し、下表のとおり1～4年次に開講されている科目を修得しなければならない。

教養科目	基礎科目	共通専門科目 (必修科目)	共通専門 実習科目	薬学科専門科目 (必修科目)	薬学科 専門実 習科目	合計
8単位 以上	22単位	70単位	12単位	30単位	3単位	145単位 以上

（注1） 実習は所定年次において修得するものとする。

（注2） 薬学科専門科目（選択科目）については5単位以上を、当該学年までに修得することを推奨する。

- 2 上記進級要件に必要な薬学科専門科目（必修科目）のうち、単位未修得の科目が2科目以下である学生に対して、授業への出席要件を満たし試験を受験して不合格であった場合、条件付きで仮進級を認めることがある。
- 3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

（薬学科6年次進級要件）

第23条 6年次に進級するためには、5年間以上在学し、下表のとおり1～5年次に開講されている科目を修得しなければならない。

教養科目	基礎科目	共通専門科目 (必修科目)	共通専門 実習科目	薬学科専門科目 (必修科目)	薬学科 専門実 習科目	合計
8単位 以上	22単位	70単位	12単位	30単位	23単位	165単位 以上

- 2 上記進級要件に必要な2つの薬学科専門実習科目のうち、どちらかひとつの科目を未修得である学生に対して、一定の条件を満たせば仮進級を認めることがある。
- 3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

（総合薬科学研究及び総合薬学研究）

第24条 3年次後期から薬科学科の学生は総合薬科学研究を、また薬学科の学生は総合薬学研究を履修しなければならない。

（病院実務実習等）

第25条 薬学科の学生は、4年次2月あるいは5年次5月から薬局実務実習及び病院実務実習を履修しなければならない。

(卒業要件)

第 26 条 卒業するための要件は下表のとおり。

学科	教養科目	基礎科目	共通専門課程		学科専門課程		合計
			共通専門科目	共通専門実習科目	学科専門科目	学科専門実習科目	
薬科学科	8 単位以上	22 単位	70 単位以上	12 単位	10 単位以上	10 単位	132 単位以上
薬学科	8 単位以上	22 単位	70 単位以上	12 単位	35 単位以上	46 単位	193 単位以上

2 卒業・留年の判定は教授会の議を経る。

附則

- 1 この細則は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 令和 3 年以前に入学した者については、この細則にかかわらず、旧履修細則を適用する。
- 3 この細則によりがたい特別の事情があると認められる事項については、教授会の議によるものとする。

〈2018（平成30）年度～2021（令和3）年度入学生用〉

薬学部履修細則

第1章 目的

（目的）

第1条 薬学部授業科目の履修方法その他学生の学修に関しては、静岡県立大学学則及び本細則に定めるものとする。

第2章 授業科目及び履修方法

（開設授業科目）

第2条 開設する授業科目及び単位数は、学則第42条に定めるとおりとする。

（授業科目の履修方法・登録）

第3条 学生は、授業開始後2週間以内にその学期において履修しようとする授業科目を所定の方法（Web 学生サービス支援システムによる履修登録）により申告しなければならない。

2 履修登録はWeb 学生サービス支援システムにより申告する。

（履修登録の変更）

第4条 履修登録の変更は、登録期限後決められた期限内に限り認める。

2 前項の変更は、所定の様式により学生室教務担当に届け出なければならない。

（同一時間重複履修の禁止）

第5条 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することができない。重複して申告したときは、そのいずれも無効となる。

（既修得授業科目の再履修）

第6条 既に単位を取得した授業科目は、履修することができない。

（配当年次）

第7条 各授業科目の配当年次は、本細則別表に掲げる。

（教養科目の履修単位）

第8条 教養科目の修得必要単位数は8単位以上とする。

2 平成27年度から「地（知）の拠点整備事業」採択により、新たに設けた「しずおか学」科目群については、卒業までに最低2単位履修すること。

（基礎科目の履修単位）

第9条 基礎科目の修得必要単位数は次のとおりとする。

必修科目：22単位

(共通専門科目の履修単位)

第 10 条 共通専門科目の修得必要単位数は次のとおりとする。

薬科学科：講義 70 単位

薬 学 科：講義 70 単位

(学科専門科目の履修単位)

第 11 条 各学科の学科専門科目（薬科学科専門科目及び薬学科専門科目）の修得必要単位数は次のとおりとする。

薬科学科：講義 10 単位（薬科学科専門科目）

薬 学 科：講義 35 単位（薬学科専門科目）

(実習の履修単位)

第 12 条 各学科の実習単位数は次のとおりとする。

薬科学科：実習 22 単位（共通専門実習科目及び薬科学科専門実習科目）

薬 学 科：実習 58 単位（共通専門実習科目及び薬学科専門実習科目）

(単位の修得)

第 13 条 授業科目の単位の修得は、担当教員の認定による。

2 単位を修得するためには、その授業科目を履修し、且つ試験に合格しなければならない。

第 3 章 試験及び成績評価

(成績評価)

第 14 条 成績評価は、6 割以上を合格とする。

2 特別実習、セミナー、その他授業科目の性質により前項の基準によりがたいものについて、その学修成果は、合格、不合格の 2 段階で評価することができる。

3 履修を申告し、単位を修得しなかった授業科目は、不可と判定する。

(単位認定報告書の提出)

第 15 条 担当教員は、試験終了後 2 週間以内に成績の評価を単位認定報告書に記入し学生室教務担当に提出する。

(追試験)

第 16 条 次の理由で定期試験を欠席した者について、追試験を行うことができる。

(1) 病気（ただし、医師の診断書を要する）

(2) 忌引（1・2 親等に限り、死亡の日より 1 週間以内）

(3) 就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

(4) その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

上の事情により追試験を希望する者は、定期試験の当該科目試験終了の日から 1 週間以内に、所定の様式により学生室教務担当に届け出なければならない。

(再試験)

第 17 条 成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しては、原則として再試験は行わない。ただし、やむを得ない事情により授業担当教員が再試験の必要を認める場合は、これを行うことができる。

2 再試験を希望する者は、所定の様式により授業担当教員に届け出なければならない。

(不正行為)

第 18 条 学修の過程（講義への出席、レポート作成、試験など）において不正行為を行った者には、当該科目のほか、当該学期での全科目について、その年度の単位を与えないなどの処分を行う。さらに学則第 57 条第 1 項に基づき懲戒処分を行うことがある。

(再履修)

第 19 条 前期又は前年度において単位を修得できなかった授業科目については、後期又は後年度において再び履修して単位の修得を図ることができる。

第 4 章 進級要件等

(3 年次進級要件)

第 20 条 3 年次に進級するためには、2 年間以上在学し、下表のとおり教養科目 8 単位以上、及び 1～2 年次に開講されている全ての基礎科目、共通専門科目（必修科目）、及び共通専門実習科目を修得しなければならない。

教養科目	基礎科目	共通専門科目 (必修科目)	共通専門 実習科目	合 計
8 単位以上	20 単位	59 単位	9 単位	96 単位

(注 1) 実習は所定年次において修得するものとする。

2 上記進級要件に必要な共通専門科目（必修科目）のうち、単位未修得の科目が 2 科目以下である学生に対して、授業への出席要件を満たし試験を受験して不合格であった場合、条件付きで仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(4 年次進級要件)

第 21 条 4 年次に進級するためには、3 年間以上在学し、下表のとおり 1～3 年次に開講されている科目を修得しなければならない。

学科	教養科目	基礎科目	共通専門科目 (必修科目)	学科専門科目 (必修科目)	共通専門実習科目	合計
薬科学科	8 単位 以上	22 単位	70 単位	—	12 単位	112 単位 以上
薬学科	8 単位 以上	22 単位	70 単位	18 単位	12 単位	130 単位 以上

(注 1) 実習は所定年次において修得するものとする。

(注 2) 学科専門科目（選択科目）については、薬科学科で 2 単位以上、薬学科で 2 単位以上当該学年中に修得することを推奨する。

2 上記進級要件に必要な共通専門科目（必修科目）および学科専門科目（必修科目）のうち、単位未修得の科目が 2 科目以下である学生に対して、授業への出席要件を満たし試験を受験して不合格であった場合、条件付きで仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(薬学科5年次進級要件)

第22条 5年次に進級するためには、4年間以上在学し、下表のとおり1～4年次に開講されている科目を修得しなければならない。

教養科目	基礎科目	共通専門科目 (必修科目)	共通専門 実習科目	薬学科専門科目 (必修科目)	薬学科 専門実 習科目	合計
8単位 以上	22単位	70単位	12単位	30単位	3単位	145単位 以上

(注1) 実習は所定年次において修得するものとする。

(注2) 薬学科専門科目(選択科目)については5単位以上を、当該学年までに修得することを推奨する。

2 上記進級要件に必要な薬学科専門科目(必修科目)のうち、単位未修得の科目が2科目以下である学生に対して、授業への出席要件を満たし試験を受験して不合格であった場合、条件付きで仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(薬学科6年次進級要件)

第23条 6年次に進級するためには、5年間以上在学し、下表のとおり1～5年次に開講されている科目を修得しなければならない。

教養科目	基礎科目	共通専門科目 (必修科目)	共通専門 実習科目	薬学科専門科目 (必修科目)	薬学科 専門実 習科目	合計
8単位 以上	22単位	70単位	12単位	30単位	23単位	165単位 以上

2 上記進級要件に必要な2つの薬学科専門実習科目のうち、どちらかひとつの科目を未修得である学生に対して、一定の条件を満たせば仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(総合薬科学研究及び総合薬学研究)

第24条 3年次後期から薬科学科の学生は総合薬科学研究を、また薬学科の学生は総合薬学研究を履修しなければならない。

(病院実務実習等)

第25条 薬学科の学生は、4年次2月あるいは5年次5月から薬局実務実習及び病院実務実習を履修しなければならない。

(卒業要件)

第 26 条 卒業するための要件は下表のとおり。

学科	教養科目	基礎科目	共通専門課程		学科専門課程		合計
			共通専門科目	共通専門実習科目	学科専門科目	学科専門実習科目	
薬科学科	8 単位以上	22 単位	70 単位以上	12 単位	10 単位以上	10 単位	132 単位以上
薬学科	8 単位以上	22 単位	70 単位以上	12 単位	35 単位以上	46 単位	193 単位以上

2 卒業・留年の判定は教授会の議を経る。

附則

- 1 この細則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 29 年以前に入学した者については、この細則にかかわらず、旧履修細則を適用する。
- 3 この細則によりがたい特別の事情があると認められる事項については、教授会の議によるものとする。

〈2016（平成28）年度～2017（平成29）年度入学生用〉

薬学部履修細則

第1章 目的

（目的）

第1条 薬学部授業科目の履修方法その他学生の学修に関しては、静岡県立大学学則及び本細則に定めるものとする。

第2章 授業科目及び履修方法

（開設授業科目）

第2条 開設する授業科目及び単位数は、学則第42条に定めるとおりとする。

（授業科目の履修方法・登録）

第3条 学生は、授業開始後2週間以内にその学期において履修しようとする授業科目を所定の方法（Web学生支援システムによる履修登録）により申告しなければならない。

2 履修登録はWeb学生支援システムにより申告する。

（履修登録の変更）

第4条 履修登録の変更は、登録期限後決められた期限内に限り認める。

2 前項の変更は、所定の様式により学生室教務担当に届け出なければならない。

（同一時間重複履修の禁止）

第5条 同一時間に開講される授業科目は、重複して履修することができない。重複して申告したときは、そのいずれも無効となる。

（既修得授業科目の再履修）

第6条 既に単位を取得した授業科目は、履修することができない。

（配当年次）

第7条 各授業科目の配当年次は、本細則別表に掲げる。

（教養科目の履修単位）

第8条 教養科目の修得必要単位数は8単位以上とする。

2 平成27年度から「地（知）の拠点整備事業採択」により、新たに設けた「しずおか学」科目群については、卒業までに最低2単位履修すること。

（基礎科目の履修単位）

第9条 基礎科目の修得必要単位数は次のとおりとする。

必修科目：25単位

（共通専門科目の履修単位）

第10条 共通専門科目の修得必要単位数は次のとおりとする。

薬学科：講義93単位

薬科学科：講義79単位

(学科専門科目の履修単位)

第 11 条 各学科の学科専門科目（薬学科専門科目及び薬科学科専門科目）の修得必要単位数は次のとおりとする。

薬 学 科：講義 11 単位（薬学科専門科目）

薬科学科：講義 2 単位（薬科学科専門科目）

(実習の履修単位)

第 12 条 各学科の実習単位数は次のとおりとする。

薬 学 科：実習 58 単位（共通専門実習科目及び薬学科専門実習科目）

薬科学科：実習 27 単位（共通専門実習科目及び薬科学科専門実習科目）

(単位の修得)

第 13 条 授業科目の単位の修得は、担当教員の認定による。

2 単位を修得するためには、その授業科目を履修し、且つ試験に合格しなければならない。

第 3 章 試験及び成績評価

(成績評価)

第 14 条 成績評価は、6 割以上を合格とする。

2 特別実習、セミナー、その他授業科目の性質により前項の基準によりがたいものについて、その学修成果は、合格、不可の 2 段階で評価することができる。

3 履修を申告し、単位を修得しなかった授業科目は、不可と判定する。

(単位認定報告書の提出)

第 15 条 担当教員は、試験終了後 2 週間以内に成績の評価を単位認定報告書に記入し学生室教務担当に提出する。

(追試験)

第 16 条 次の理由で定期試験を欠席した者について、追試験を行うことができる。

(1) 病気（ただし、医師の診断書を要する）

(2) 忌引（1・2 親等に限り、死亡の日より 1 週間以内）

(3) 就職に関する事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

(4) その他やむを得ない事由（ただし、具体的に事情の具申あるもの）

上の事情により追試験を希望する者は、定期試験の当該科目試験終了の日から 1 週間以内に、所定の様式により学生室教務担当に届け出なければならない。

(再試験)

第 17 条 成績不良のため単位の修得ができなかった者に対しては、原則として再試験は行わない。ただし、やむを得ない事情により授業担当教員が再試験の必要を認める場合は、これを行うことができる。

2 再試験を希望する者は、所定の様式により授業担当教員に届け出なければならない。

(不正行為)

第 18 条 試験において不正行為を行った者には、当該科目のほか、当該学期での全科目について、その年度の単位を与えないなどの処分を行う。さらに学則第 57 条第 1 項に基づき

懲戒処分を行うことがある。

(再履修)

第 19 条 前期又は前年度において単位を修得できなかった授業科目については、後期又は後年度において再び履修して単位の修得を図ることができる。

第 4 章 進級要件等

(3 年次進級要件)

第 20 条 3 年次に進級するためには、2 年以上在学し、下表のとおり教養科目 8 単位以上、及び 1～2 年次に開講されている全ての基礎科目、共通専門科目（必修科目）、及び共通専門実習科目を修得しなければならない。

教養科目	基礎科目	共通専門科目 (必修科目)	共通専門 実習科目	合 計
8 単位以上	23 単位	55 単位	9 単位	95 単位

(注) 1 実習は所定年次において修得するものとする。

2 上記進級要件に必要な共通専門科目（必修科目）のうち、単位未修得の科目が 2 科目以下である学生に対して、一定の条件を満たせば仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(4 年次進級要件)

第 21 条 4 年次に進級するためには、3 年以上在学し、下表のとおり 1～3 年次に開講されている科目を修得しなければならない。

学科	教養科目	基礎科目	共通専門科目 (必修科目)	共通専門実習科目	合計
薬学科	8 単位 以上	25 単位	90 単位	17 単位	140 単位 以上
薬科学科	8 単位 以上	25 単位	74 単位	17 単位	124 単位 以上

(注 1) 実習は所定年次において修得するものとする。

(注 2) 共通専門科目（選択科目）については、薬学科で 3 単位以上、薬科学科で 5 単位以上当該学年中に修得することを推奨する。

2 上記進級要件に必要な共通専門科目（必修科目）のうち、単位未修得の科目が 2 科目以下である学生に対して、一定の条件を満たせば仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(薬学科5年次進級要件)

第22条 5年次に進級するためには、4年以上在学し、下表のとおり1～4年次に開講されている科目を修得しなければならない。

教養科目	基礎科目	共通専門科目 (必修科目)	共通専門 実習科目	薬学科専門科目 (必修科目)	薬学科 専門実 習科目	合計
8単位 以上	25単位	90単位	17単位	9単位	3単位	152単位 以上

(注1) 実習は所定年次において修得するものとする。

(注2) 共通専門科目(選択科目)については3単位以上を、薬学科専門科目(選択科目)については2単位以上を、当該学年までに修得することを推奨する。

2 上記進級要件に必要な薬学科専門科目(必修科目)のうち、単位未修得の科目が2科目以下である学生に対して、一定の条件を満たせば仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(6年次進級要件)

第23条 6年次に進級するためには、5年以上在学し、下表のとおり1～5年次に開講されている科目を修得しなければならない。

教養科目	基礎科目	共通専門科目 (必修科目)	共通専門 実習科目	薬学科専門科目 (必修科目)	薬学科 専門実 習科目	合計
8単位 以上	25単位	90単位	17単位	9単位	23単位	172単位 以上

2 上記進級要件に必要な2つの薬学科専門実習科目のうち、どちらかひとつの科目を未修得である学生に対して、一定の条件を満たせば仮進級を認めることがある。

3 進級・留年の判定は教授会の議を経る。

(総合薬学研究及び総合薬科学研究)

第24条 薬学科を選択し4年次に進級した者は総合薬学研究を、また薬科学科を選択し4年次に進級した者は総合薬科学研究を履修しなければならない。

(病院実務実習等)

第25条 薬学科を選択し、5年次に進級した者は、病院実務実習及び薬局実務実習を履修しなければならない。

(卒業要件)

第 26 条 卒業するための要件は下表のとおり。

学科	教養科目	基礎科目	共通専門課程		学科専門課程		合計
			共通専門科目	共通専門実習科目	学科専門科目	学科専門実習科目	
薬学科	8 単位以上	25 単位	93 単位以上	17 単位	11 単位以上	41 単位	195 単位以上
薬科学科	8 単位以上	25 単位	79 単位以上	17 単位	2 単位以上	10 単位	141 単位以上

2 卒業・留年の判定は教授会の議を経る。

附則

- 1 この細則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 26 年以前に入学した者については、この細則にかかわらず、旧履修細則を適用する。
- 3 この細則によりがたい特別の事情があると認められる事項については、教授会の議によるものとする。

令和6年度教養科目

※表中の「相当科目」欄に記載された科目の単位を修得した場合、同一行の「科目名」に記載された科目を履修できないので留意してください。

科目名	単位数	担当教員 (斜体は非常勤講師)	相当科目	備考
数理・データサイエンス・AI入門 【遠隔授業】【必修科目】※	1	武藤伸明 ほか		
ドイツ語入門	2	ファイファー・マティアス		
フランス語入門	2	剣持 久木		
スペイン語入門	2	杉田和歌子		
中国語入門	2	王元武		
日本語作文A	2	逢坂里恵		
日本語作文B	2	逢坂里恵		
中級日本語Ⅰ	2	水野かほる		
中級日本語Ⅱ	2	水野かほる		
情報検索実習	2	六井淳		
ヒューマン・ケア	2	飯島本子		
TOEFL留学英語Ⅰ	1	小田 透	TOEFL留学英語	
TOEFL留学英語Ⅱ	1	小田 透		
TOEICビジネス基礎英語	1	堀内裕晃		
TOEICビジネス英語Ⅰ	1	山本好比古		
TOEICビジネス英語Ⅱ	1	山本好比古		
自然科学概論	2	橋本博 ほか		
化学入門	2	眞鍋敬 ほか		
生物学入門	2	竹内英之 ほか		
薬剤発達史入門	2	賀川義之 ほか	くすりと医療の歩み	
物理学入門	2	本同宏成 ほか		
環境科学入門	2	谷幸則 ほか	自然と環境・環境と健康	
哲学入門	2	飯野勝己		
社会思想史入門	2	犬塚協太	社会思想史	
歴史学入門	2	栗田和典		
宗教学入門	2	佐藤清子	現代の問題と宗教	
社会学入門	2	石井由香	グローバル社会学入門	
国際関係学入門	2	小窪 千早 ほか	国際関係学への招待	
文化人類学入門	2	金明美	エスニシティ論、多文化共生論	
公共政策入門	2	藤本 健太郎	社会保障とソーシャルインクルージョン	
心理学入門	2	西田公昭	日常生活と心理学	
生涯発達心理入門	2	篤宗一 ほか	心の発達と行動	
知的財産管理入門	1	屋藤洋之		
国際安全保障入門Ⅰ	2	西恭之		
国際安全保障入門Ⅱ	2	西恭之		
くらしと化学A	1	近藤啓 ほか		
くらしと化学B	1	近藤啓 ほか		
実用科学英語基礎編	2	太田敏郎		
実用科学英語応用編	2	太田敏郎		
基礎生命科学Ⅰ	2	太田敏郎		【英語による科目】
基礎生命科学Ⅱ	2	太田敏郎		【英語による科目】
現代日本文化入門A	1	ファイファー・マティアス		【英語による科目】
現代日本文化入門B	1	ファイファー・マティアス		【英語による科目】
経営分析入門A	1	上野、竹下		【英語による科目】
経営分析入門B	1	上野、竹下		【英語による科目】
英語で学ぶ日本語学ⅠA	1	藤森敦之		【英語による科目】
英語で学ぶ日本語学ⅠB	1	藤森敦之		【英語による科目】
英語で学ぶ日本語学ⅡA	1	吉村紀子		【英語による科目】
英語で学ぶ日本語学ⅡB	1	吉村紀子		【英語による科目】
財務会計入門A	1	上野雄史		【英語による科目】
財務会計入門B	1	上野雄史		【英語による科目】
言語の学習・習得ⅠA	1	吉村紀子	言語の学習・習得 A	【英語による科目】
言語の学習・習得ⅠB	1	吉村紀子	言語の学習・習得 B	【英語による科目】
言語の学習・習得ⅡA	1	藤森敦之		【英語による科目】
言語の学習・習得ⅡB	1	藤森敦之		【英語による科目】

科目名	単位数	担当教員 (斜体は非常勤講師)	相当科目	備考
静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	2	森本達也 ほか		【しずおか学】
静岡の防災と医療	2	森本達也 ほか		【しずおか学】
静岡地域食材学A	1	三好規之 ほか		【しずおか学】
静岡地域食材学B	1	江口智美 ほか		【しずおか学】
茶学入門	2	中村順行		【しずおか学】
ムセイオン静岡 - MUSEUMと文化A	1	立田洋司	・MUSEUMと文化 ・ムセイオンⅠ MUSEUMと文化A	【しずおか学】
ムセイオン静岡 - MUSEUMと文化B	1	立田洋司	・MUSEUMと文化 ・ムセイオンⅠ MUSEUMと文化B	【しずおか学】
ムセイオン静岡 - 世界の文化遺産A	1	立田洋司	・世界の文化遺産 ・ムセイオンⅡ 世界の文化遺産A	【しずおか学】
ムセイオン静岡 - 世界の文化遺産B	1	立田洋司	・世界の文化遺産 ・ムセイオンⅡ 世界の文化遺産B	【しずおか学】
ムセイオン静岡 - 舞台芸術A	1	立田洋司	・表現・コミュニケーション・カルチャー ・ムセイオンⅢ 舞台芸術A	【しずおか学】
ムセイオン静岡 - 舞台芸術B	1	立田洋司	・表現・コミュニケーション・カルチャー ・ムセイオンⅢ 舞台芸術B	【しずおか学】
静岡の市民活動	1	津富宏 ほか		【しずおか学】
歴史からみるしずおか学	2	上野雄史		【しずおか学】
新聞でもっと静岡を知ろう	2	上原克仁 ほか		【しずおか学】
企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	2	上原克仁 ほか		【しずおか学】
SDGs概論	2	谷晃 ほか		【しずおか学】
ふじのくにが「ストロミナリズム」：観る・食べる・学ぶ	2	大久保あかね ほか		【しずおか学】
静岡「知」各論-食品環境科学と地域企業の視点から-	2	伊藤創平 ほか		【しずおか学】
世界からしずおかを見る しずおかから世界へ	2	横井 香織 ほか		【しずおか学】
ふじのくに学 (お茶)	2	中村順行 ほか		【しずおか学】
ふじのくに学 (観光学)	1	北上真一 ほか		【しずおか学】
ふじのくに学 (演劇論)	2	宮城聰(静岡英和学院大学) ほか		【しずおか学】
ふじのくに学 (南アルプスの自然)	1	静岡大学教員 ほか		【しずおか学】
ふじのくに学 (静岡県の産業イノベーション)	2	静岡産業大学教員 ほか		【しずおか学】
ふじのくに学 (静岡県の産業イノベーションⅡ)	2	静岡産業大学教員 ほか		【しずおか学】
ふじのくに学 (静岡県の産業イノベーションⅢ)	2	静岡産業大学教員 ほか		【しずおか学】
ふじのくに学 (農林業)	1	静岡大学教員 ほか		【しずおか学】
ふじのくに学 (森林生態系からの恵み)	1	静岡大学教員 ほか		【しずおか学】
ふじのくに学 (伊豆の温泉と産業おこし)	2	楠城一嘉、鴨川仁 ほか		【しずおか学】
ふじのくに学 (魅力ある食と地域づくり)	2	大久保あかね ほか		【しずおか学】
ふじのくに学 (静岡県西部地域の特性と産業)	2	静岡文化芸術大学教員 ほか		【しずおか学】
健康イノベーション教育プログラム	2	新井英一 ほか		【しずおか学】
キャリアデザイン概論	2	東野 定律		
男女共同参画社会とジェンダー	2	犬塚協太 ほか		
人権が支える社会	2	坪田 光平	人権問題を考える	
ジャーナリズム論	2	西恭之 ほか		
キャリアと社会*1	2	羽衣国際大学教員 ほか		
高野山で学ぶキャリアとわたし*1	2	高野山大学教員 ほか		
ライフスポーツ	1	窪田辰政		

卒業までに「2単位」修得すること

※【必修科目】は令和6年度以降入学生を対象とし、卒業要件に該当する。ただし、進級要件については各学部の定めによる。

* 1は南大阪地域大学コンソーシアムの科目。

<2024（令和6）年度以降入学者用>

カリキュラム科目表（基礎科目）両学科共通

薬学科（6年制）					薬科学科（4年制）				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
フレッシュマンイングリッシュⅠA	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅠA	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅡA	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅡA	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅠB	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅠB	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅡB	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅡB	1	1		
物理学	1	2			物理学	1	2		
基礎化学	1	2			基礎化学	1	2		
数学Ⅰ	1	2			数学Ⅰ	1	2		
数学Ⅱ	1	2			数学Ⅱ	1	2		
統計学	1	1			統計学	1	1		
身体運動科学	1	2			身体運動科学	1	2		
命と倫理	1	2			命と倫理	1	2		
情報科学	1			1	情報科学	1			1
科学演習	1	1			科学演習	1	1		
英語コミュニケーションⅠ	2	1			英語コミュニケーションⅠ	2	1		
英語コミュニケーションⅡ	2	1			英語コミュニケーションⅡ	2	1		
英語コミュニケーションⅢ	2			1	英語コミュニケーションⅢ	2			1
英語コミュニケーションⅣ	2			1	英語コミュニケーションⅣ	2			1
薬学英语	3	2			薬学英语	3	2		
海外英語研修				1	海外英語研修				1

<2024（令和6）年度以降入学者用>

カリキュラム科目表（専門科目）

薬学科（6年制）					薬科学科（4年制）				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
薬学概論	1	2			薬学概論	1	2		
無機化学	1	2			無機化学	1	2		
有機化学Ⅰ	1	2			有機化学Ⅰ	1	2		
物理化学Ⅰ	1	2			物理化学Ⅰ	1	2		
物理化学Ⅱ	1	2			物理化学Ⅱ	1	2		
分析化学Ⅰ	1	2			分析化学Ⅰ	1	2		
分析化学Ⅱ	1	2			分析化学Ⅱ	1	2		
生物化学Ⅰ	1	2			生物化学Ⅰ	1	2		
生物化学Ⅱ	1	2			生物化学Ⅱ	1	2		
公衆衛生学	1	2			公衆衛生学	1	2		
機能形態生理学Ⅰ	1	2			機能形態生理学Ⅰ	1	2		
早期体験学習	1~2	1			早期体験学習	1~2	1		
臨床薬学演習Ⅰ	1	0.5							
有機化学Ⅱ	2	2			有機化学Ⅱ	2	2		
有機化学Ⅲ	2	2			有機化学Ⅲ	2	2		
有機化学Ⅳ	2	2			有機化学Ⅳ	2	2		
生薬学	2	2			生薬学	2	2		
物理化学Ⅲ	2	2			物理化学Ⅲ	2	2		
生物物理化学	2	1			生物物理化学	2	1		
生物化学Ⅲ	2	2			生物化学Ⅲ	2	2		
生物化学Ⅳ	2	2			生物化学Ⅳ	2	2		
微生物学	2	2			微生物学	2	2		
免疫学	2	2			免疫学	2	2		
衛生薬学Ⅰ	2	2			衛生薬学Ⅰ	2	2		
衛生薬学Ⅱ	2	2			衛生薬学Ⅱ	2	2		
放射化学	2	1			放射化学	2	1		
機能形態生理学Ⅱ	2	2			機能形態生理学Ⅱ	2	2		
機能形態生理学Ⅲ	2	2			機能形態生理学Ⅲ	2	2		
薬理学Ⅰ	2	2			薬理学Ⅰ	2	2		
薬理学Ⅱ	2	2			薬理学Ⅱ	2	2		
製剤学	2	2			製剤学	2	2		
薬剤学	2	1			薬剤学	2	1		
薬物動態学Ⅰ	2	2			薬物動態学Ⅰ	2	2		
臨床検査学	2	2			臨床検査学	2		2	
物理系薬学実習	2	1.5			物理系薬学実習	2	1.5		
生物系薬学実習Ⅰ	2	1.5			生物系薬学実習Ⅰ	2	1.5		
化学系薬学実習Ⅰ	2	1			化学系薬学実習Ⅰ	2	1		
生物系薬学実習Ⅱ	2	2			生物系薬学実習Ⅱ	2	2		
化学系薬学実習Ⅱ	2	2			化学系薬学実習Ⅱ	2	2		
臨床薬学演習Ⅱ	2	0.5							
薬品分析化学	3	2			薬品分析化学	3	2		
創薬科学	3	2			創薬科学	3	2		
薬理学Ⅲ	3	2			薬理学Ⅲ	3	2		
薬理学Ⅳ	3	2			薬理学Ⅳ	3	2		

薬学科（6年制）					薬科学科（4年制）				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
毒性学	3	2			毒性学	3	2		
医薬品安全性学	3	1			医薬品安全性学	3	1		
医療系・生物系薬学実習	3	1.5			医療系・生物系薬学実習	3	1.5		
薬剤系薬学実習	3	1.5			薬剤系薬学実習	3	1.5		
臨床薬学演習Ⅲ	3	0.5							
医用工学実習	3			0.5	医用工学実習	3			0.5
					臨床検査事前臨地実習	3~4			1
					生理検査学に関する臨床検査 臨地実習	3~4			3
					生理検査学以外の臨床検査臨 地実習	3~4			8
医薬化学	3		1		医薬化学	3		1	
有機合成論	3		1		有機合成論	3		1	
薬品製造論	3		1		薬品製造論	3		1	
微生物薬品学	3		1		微生物薬品学	3		1	
漢方薬学	3	2			漢方薬学	3		2	
遺伝子工学	3		1		遺伝子工学	3		1	
糖鎖生物学	3		1		糖鎖生物学	3		1	
薬物動態学Ⅱ	3	2			薬物動態学Ⅱ	3		2	
薬物療法学Ⅰ	3	2			薬物療法学Ⅰ	3		2	
薬物療法学Ⅱ	3	2			薬物療法学Ⅱ	3		2	
疾患学Ⅰ	3	2			疾患学Ⅰ	3		2	
疾患学Ⅱ	3	2			疾患学Ⅱ	3		2	
創剤工学	3	1			創剤工学	3		1	
薬学と社会Ⅰ	3	1			薬学と社会Ⅰ	3			1
医薬品情報学Ⅰ	3	1			医薬品情報学Ⅰ	3		1	
医薬品情報学Ⅱ	3	1			医薬品情報学Ⅱ	3		1	
遺伝子診断学	3	1			遺伝子診断学	3		1	
生物統計学	3		1		生物統計学	3		1	
医動物学	3			1	医動物学	3			1
医薬品製造開発論	4		1		医薬品製造開発論	4		1	
薬学と社会Ⅱ	4	1			薬学と社会Ⅱ	4			1
医薬品情報学Ⅲ	4	1			医薬品情報学Ⅲ	4			1
医療とコミュニケーション学	4	1			医療とコミュニケーション学	4			1
臨床薬物動態学	4	1			臨床薬物動態学	4		1	
薬物療法学Ⅲ	4	2			薬物療法学Ⅲ	4		2	
疾患学Ⅲ	4	2			疾患学Ⅲ	4		2	
筋生理学	3		1		筋生理学	3		1	
調剤学	4	2			調剤学	4			2
症候学	4	2							
臨床医学総論	4		1		臨床医学総論	4		1	
医用工学概論	4			2	医用工学概論	4			2
臨床検査総論	4			2	臨床検査総論	4			2
臨床生理学	4			2	臨床生理学	4			2
イギリスリサーチプレゼンテーション	4~6			1	イギリスリサーチプレゼンテーション	4			1
総合薬学研究	3~6	15			総合薬科学研究	3~4	10		
実務事前実習（5週間）	3~4	3							
臨床薬学演習Ⅳ	4~6	2.5							

薬学科（6年制）					薬科学科（4年制）				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
総合薬学演習	4～6	3							
病院実務実習（11週間）	5	10							
薬局実務実習（11週間）	5	10							
静岡救命連携演習	5～6	2							
アドバンスト実務実習-地域医療	5～6			1					
アドバンスト実務実習-国際医療	5～6			1					
アドバンスト実務実習-臨床薬学	5～6			1					

薬科学科カリキュラム早見表<2024年(令和6)年度以降入学者用>

区分	授業科目	開講学年	必修科目	選択科目	自由選択科目	備考	
薬学 教養 共通 科目 課程	数理・データサイエンス・AI入門 【遠隔授業】	1	1				
	ドイツ語入門	1or2		2			
	フランス語入門	1or2		2			
	スペイン語入門	1or2		2			
	中国語入門	1or2		2			
	日本語作文A	1or2		2		教養科目	
	日本語作文B	1or2		2			
	中級日本語Ⅰ	1or2		2		必修科目	
	中級日本語Ⅱ	1or2		2		1単位	
	情報検索実習	1or2		2		しずおか学	
	ヒューマン・ケア	1or2		2		2単位以上	
	TOEFL留学英語Ⅰ	1or2		1			
	TOEFL留学英語Ⅱ	1or2		1		必要修得単位数	
	TOEICビジネス基礎英語	1or2		1		8単位以上	
	TOEICビジネス英語Ⅰ	1or2		1			
	TOEICビジネス英語Ⅱ	1or2		1			
	自然科学概論	1or2		2			
	化学入門	1or2		2			
	生物学入門	1or2		2			
	薬剤発達史入門	1or2		2			
	物理学入門	1or2		2			
	環境科学入門	1or2		2			
	哲学入門	1or2		2			
	社会思想史入門	1or2		2			
	歴史学入門	1or2		2			
	宗教学入門	1or2		2			
	社会学入門	1or2		2			
	国際関係学入門	1or2		2			
	文化人類学入門	1or2		2			
	公共政策入門	1or2		2			
	心理学入門	1or2		2			
	生涯発達心理入門	1or2		2			
	知的財産管理入門	1or2		1			
	国際安全保障入門Ⅰ	1or2		2			
	国際安全保障入門Ⅱ	1or2		2			
	くらしと化学A	1or2		1			
	くらしと化学B	1or2		1			
	実用科学英語基礎編	1or2		2			
	実用科学英語応用編	1or2		2			
	基礎生命科学Ⅰ	1or2		2		【英語による科目】	
	基礎生命科学Ⅱ	1or2		2		【英語による科目】	
	現代日本文化入門A	1or2		1		【英語による科目】	
	現代日本文化入門B	1or2		1		【英語による科目】	
	経営分析入門A	1or2		1		【英語による科目】	
	経営分析入門B	1or2		1		【英語による科目】	
	英語で学ぶ日本語学ⅠA	1or2		1		【英語による科目】	
	英語で学ぶ日本語学ⅠB	1or2		1		【英語による科目】	
	英語で学ぶ日本語学ⅡA	1or2		1		【英語による科目】	
	英語で学ぶ日本語学ⅡB	1or2		1		【英語による科目】	
	財務会計入門A	1or2		1		【英語による科目】	
	財務会計入門B	1or2		1		【英語による科目】	
	言語の学習・習得ⅠA	1or2		1		【英語による科目】	
	言語の学習・習得ⅠB	1or2		1		【英語による科目】	
	言語の学習・習得ⅡA	1or2		1		【英語による科目】	
	言語の学習・習得ⅡB	1or2		1		【英語による科目】	
	薬学 教養 共通 科目 課程	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	1or2		2		【しずおか学】
		静岡の防災と医療	1or2		2		【しずおか学】
		静岡地域食材学A	1or2		1		【しずおか学】
		静岡地域食材学B	1or2		1		【しずおか学】
		茶学入門	1or2		2		【しずおか学】
		ムセイオン静岡－MUSEUMと文化A	1or2		1		【しずおか学】
		ムセイオン静岡－MUSEUMと文化B	1or2		1		【しずおか学】
		ムセイオン静岡－世界の文化遺産A	1or2		1		【しずおか学】
		ムセイオン静岡－世界の文化遺産B	1or2		1		【しずおか学】
		ムセイオン静岡－舞台芸術A	1or2		1		【しずおか学】
		ムセイオン静岡－舞台芸術B	1or2		1		【しずおか学】
静岡の市民活動		1or2		1		【しずおか学】	
歴史からみるしずおか学		1or2		2		【しずおか学】	
新聞でもっと静岡を知ろう		1or2		2		【しずおか学】	
企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線		1or2		2		【しずおか学】	
SDGs概論		1or2		2		【しずおか学】	
ふじのくに「ガストロミーツ・リズム」：観る・食べる・学ぶ		1or2		2		【しずおか学】	
静岡「知」各論-食品環境科学と地域企業の視点から-		1or2		2		【しずおか学】	
世界からしずおかを見る しずおかから世界へ		1or2		2		【しずおか学】	
ふじのくに学(お茶)		1or2		2		【しずおか学】	
ふじのくに学(観光学)	1or2		1		【しずおか学】		
ふじのくに学(演劇論)	1or2		2		【しずおか学】		
ふじのくに学(南アルプスの自然)	1or2		1		【しずおか学】		
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	1or2		2		【しずおか学】		
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションⅡ)	1or2		2		【しずおか学】		

薬学 共通 課程	教養 科目	ふじのくに学（静岡県の産業イノベーションⅢ）	【しずおか学】	1or2		2	卒業 まで に「し ずお か学 単位 以上 科目 修得 する こと 」
		ふじのくに学（農林業）	【しずおか学】	1or2		1	
		ふじのくに学（森林生態系からの恵み）	【しずおか学】	1or2		1	
		ふじのくに学（伊豆の温泉と産業おこし）	【しずおか学】	1or2		2	
		ふじのくに学（魅力ある食と地域づくり）	【しずおか学】	1or2		2	
		ふじのくに学（静岡県西部地域の特性と産業）	【しずおか学】	1or2		2	
		健康イノベーション教育プログラム	【しずおか学】	1or2		2	
		キャリアデザイン概論		1or2		2	
		男女共同参画社会とジェンダー		1or2		2	
		人権が支える社会		1or2		2	
		ジャーナリズム論		1or2		2	
		キャリアと社会 ^{※1}		1or2		2	
高野山で学ぶキャリアとわたし ^{※1}		1or2		2			
ライフスポーツ		1or2		2	1		

区分	授業科目	開講学年	必修科目	選択科目	自由選 択科目	備考
薬学 共通 課程	フレッシュマンイングリッシュⅠA	1	1			基礎科目
	フレッシュマンイングリッシュⅡA	1	1			
	フレッシュマンイングリッシュⅠB	1	1			
	フレッシュマンイングリッシュⅡB	1	1			必修科目 22単位
	物理学	1	2			
	基礎化学	1	2			選択科目 自由選択科目 4単位
	数学Ⅰ	1	2			
	数学Ⅱ	1	2			必要修得単位数 22単位
	統計学	1	1			
	身体運動科学	1	2			
	命と倫理	1	2			
	情報科学	1	1		1	
	科学演習	1	1			
	英語コミュニケーションⅠ	2	1			
	英語コミュニケーションⅡ	2	1			
	英語コミュニケーションⅢ	2			1	
	英語コミュニケーションⅣ	2			1	
薬学英语	3	2			1	
海外研修英語					1	
区分	授業科目	開講学年	必修科目	選択科目	自由選 択科目	備考
薬学 共通 専門 課程	薬学概論	1	2			共通専門科目
	無機化学	1	2			
	有機化学Ⅰ	1	2			
	物理化学Ⅰ	1	2			
	物理化学Ⅱ	1	2			
	分析化学Ⅰ	1	2			
	分析化学Ⅱ	1	2			
	生物化学Ⅰ	1	2			
	生物化学Ⅱ	1	2			
	公衆衛生学	1	2			
	機能形態生理学Ⅰ	1	2			必要修得単位数 70単位
	有機化学Ⅱ	2	2			
	有機化学Ⅲ	2	2			
	有機化学Ⅳ	2	2			
	生薬学	2	2			
	物理化学Ⅲ	2	2			
	生物物理化学	2	1			
	生物化学Ⅲ	2	2			
	生物化学Ⅳ	2	2			
	微生物学	2	2			
	免疫学	2	2			
	衛生薬学Ⅰ	2	2			
	衛生薬学Ⅱ	2	2			
	放射化学	2	1			
	機能形態生理学Ⅱ	2	2			
	機能形態生理学Ⅲ	2	2			
	薬理学Ⅰ	2	2			
	薬理学Ⅱ	2	2			
	製剤学	2	2			
	薬剤学	2	1			
	薬物動態学Ⅰ	2	2			
	薬品分析化学	3	2			
創薬科学	3	2				
薬理学Ⅲ	3	2				
薬理学Ⅳ	3	2				
毒性学	3	2				
医薬品安全性学	3	1				

区分	授業科目	開講学年	必修科目	選択科目	自由選択科目	備考
薬学共通課程	早期体験学習	1~2	1			共通専門実習科目
	物理系薬学実習	2	1.5			必修科目 12単位
	生物系薬学実習Ⅰ	2	1.5			
	化学系薬学実習Ⅰ	2	1			自由選択科目 12.5単位 必要修得単位数 12単位
	生物系薬学実習Ⅱ	2	2			
	化学系薬学実習Ⅱ	2	2			
	医療系・生物系薬学実習	3	1.5			
	薬剤系薬学実習	3	1.5			
	医用工学実習	3			0.5	
	臨床検査事前臨地実習	3~4			1	
生理検査学に関する臨床検査臨地実習	3~4			3		
生理検査学以外の臨床検査臨地実習	3~4			8		
薬科学科専門課程	臨床検査学	2		2		薬科学科 専門科目 必修科目 0 選択科目 33単位
	医薬化学	3		1		
	有機合成論	3		1		
	薬品製造論	3		1		
	微生物薬品学	3		1		
	漢方薬学	3		2		
	遺伝子工学	3		1		
	糖鎖生物学	3		1		
	薬物動態学Ⅱ	3		2		
	薬物療法学Ⅰ	3		2		
	薬物療法学Ⅱ	3		2		
	疾患学Ⅰ	3		2		
	疾患学Ⅱ	3		2		
	創剤工学	3		1		
	薬学と社会Ⅰ	3			1	
	医薬品情報学Ⅰ	3		1		
	医薬品情報学Ⅱ	3		1		
	遺伝子診断学	3		1		
	生物統計学	3		1		
	筋生理学	3		1		
	医薬品製造開発論	4		1		
	薬学と社会Ⅱ	4			1	
	医薬品情報学Ⅲ	4			1	
	医療とコミュニケーション学	4			1	
	臨床薬物動態学	4		1		
	薬物療法学Ⅲ	4		2		
	疾患学Ⅲ	4		2		
調剤学	4			2		
臨床医学総論	4		1			
医用工学概論	4			2		
臨床検査総論	4			2		
臨床生理学	4			2		
医動物学	3			1		
イングリッシュリサーチプレゼンテーション	4			1		
薬科学科専門実習科目	総合薬科学研究	3~4	10			薬科学科専門 実習科目 必修科目 10単位 必要修得単位数 10単位
(最低卒業必要修得単位数) 132単位						

薬学科カリキュラム早見表＜2024（令和6）年度以降入学者用＞

区分	授業科目	開講学年	必修科目	選択科目	自由選択科目	備考
薬学 教養 共通 課程	数理・データサイエンス・AI入門 【遠隔授業】 <small>数理・データサイエンス・AI教育プログラムによる科目</small>	1	1			教養科目 必修科目 1単位 しずおか学 2単位以上 必要修得単位数 8単位以上
	ドイツ語入門	1or2		2		
	フランス語入門	1or2		2		
	スペイン語入門	1or2		2		
	中国語入門	1or2		2		
	日本語作文A	1or2		2		
	日本語作文B	1or2		2		
	中級日本語Ⅰ	1or2		2		
	中級日本語Ⅱ	1or2		2		
	情報検索実習	1or2		2		
	ヒューマン・ケア	1or2		2		
	TOEFL留学英語Ⅰ	1or2		1		
	TOEFL留学英語Ⅱ	1or2		1		
	TOEICビジネス基礎英語	1or2		1		
	TOEICビジネス英語Ⅰ	1or2		1		
	TOEICビジネス英語Ⅱ	1or2		1		
	自然科学概論	1or2		2		
	化学入門	1or2		2		
	生物学入門	1or2		2		
	薬剤発達史入門	1or2		2		
	物理学入門	1or2		2		
	環境科学入門	1or2		2		
	哲学入門	1or2		2		
	社会思想史入門	1or2		2		
	歴史学入門	1or2		2		
	宗教学入門	1or2		2		
	社会学入門	1or2		2		
	国際関係学入門	1or2		2		
	文化人類学入門	1or2		2		
	公共政策入門	1or2		2		
	心理学入門	1or2		2		
	生涯発達心理入門	1or2		2		
	知的財産管理入門	1or2		1		
	国際安全保障入門Ⅰ	1or2		2		
	国際安全保障入門Ⅱ	1or2		2		
	くらしと化学A	1or2		1		
	くらしと化学B	1or2		1		
	実用科学英語基礎編	1or2		2		
	実用科学英語応用編	1or2		2		
	基礎生命科学Ⅰ	【英語による科目】	1or2	2		
	基礎生命科学Ⅱ	【英語による科目】	1or2	2		
	現代日本文化入門A	【英語による科目】	1or2	1		
	現代日本文化入門B	【英語による科目】	1or2	1		
	経営分析入門A	【英語による科目】	1or2	1		
	経営分析入門B	【英語による科目】	1or2	1		
	英語で学ぶ日本語学ⅠA	【英語による科目】	1or2	1		
	英語で学ぶ日本語学ⅠB	【英語による科目】	1or2	1		
英語で学ぶ日本語学ⅡA	【英語による科目】	1or2	1			
英語で学ぶ日本語学ⅡB	【英語による科目】	1or2	1			
財務会計入門A	【英語による科目】	1or2	1			
財務会計入門B	【英語による科目】	1or2	1			
言語の学習・習得ⅠA	【英語による科目】	1or2	1			
言語の学習・習得ⅠB	【英語による科目】	1or2	1			
言語の学習・習得ⅡA	【英語による科目】	1or2	1			
言語の学習・習得ⅡB	【英語による科目】	1or2	1			
薬学 教養 共通 課程	静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	【しずおか学】	1or2		2	卒業までにおか学2単位科目以上修得すること
	静岡の防災と医療	【しずおか学】	1or2		2	
	静岡地域食材学A	【しずおか学】	1or2		1	
	静岡地域食材学B	【しずおか学】	1or2		1	
	茶学入門	【しずおか学】	1or2		2	
	ムセイオン静岡－MUSEUMと文化A	【しずおか学】	1or2		1	
	ムセイオン静岡－MUSEUMと文化B	【しずおか学】	1or2		1	
	ムセイオン静岡－世界の文化遺産A	【しずおか学】	1or2		1	
	ムセイオン静岡－世界の文化遺産B	【しずおか学】	1or2		1	
	ムセイオン静岡－舞台芸術A	【しずおか学】	1or2		1	
	ムセイオン静岡－舞台芸術B	【しずおか学】	1or2		1	
	静岡の市民活動	【しずおか学】	1or2		1	
	歴史からみるしずおか学	【しずおか学】	1or2		2	
	新聞でもっと静岡を知ろう	【しずおか学】	1or2		2	
	企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	【しずおか学】	1or2		2	
	SDGs概論	【しずおか学】	1or2		2	
	ふじのくに「ガストロミツリズム」：観る・食べる・学ぶ	【しずおか学】	1or2		2	
	静岡「知」各論－食品環境科学と地域企業の視点から－	【しずおか学】	1or2		2	
	世界からしずおかを見る しずおかから世界へ	【しずおか学】	1or2		2	
	ふじのくに学（お茶）	【しずおか学】	1or2		2	
ふじのくに学（観光学）	【しずおか学】	1or2		1		
ふじのくに学（演劇論）	【しずおか学】	1or2		2		
ふじのくに学（南アルプスの自然）	【しずおか学】	1or2		1		
ふじのくに学（静岡県の産業イノベーション）	【しずおか学】	1or2		2		
ふじのくに学（静岡県の産業イノベーションⅡ）	【しずおか学】	1or2		2		
ふじのくに学（静岡県の産業イノベーションⅢ）	【しずおか学】	1or2		2		

薬 学 共 通 課 目 程	教 養 通 科 目	ふじのくに学 (農林業)	【しずおか学】	1or2		1	卒 業 し ま ず と お か し 2 単 位 科 目 上 群 修 得 ら
		ふじのくに学 (森林生態系からの恵み)	【しずおか学】	1or2		1	
		ふじのくに学 (伊豆の温泉と産業おこし)	【しずおか学】	1or2		2	
		ふじのくに学 (魅力ある食と地域づくり)	【しずおか学】	1or2		2	
		ふじのくに学 (静岡県西部地域の特性と産業)	【しずおか学】	1or2		2	
		健康イノベーション教育プログラム	【しずおか学】	1or2		2	
		キャリアデザイン概論		1or2		2	
		男女共同参画社会とジェンダー		1or2		2	
		人権を支える社会		1or2		2	
		ジャーナリズム論		1or2		2	
		キャリアと社会*		1or2		2	
高野山で学ぶキャリアとわたし*		1or2		2			
ライフスポーツ		1or2		1			

区分	授業科目	開講学年	必修科目	選択科目	自由選 択科目	備 考
薬 学 基 礎 通 科 目 程	フレッシュマンイングリッシュ I A	1	1			基 礎 科 目 必 修 科 目 22 単 位 選 択 科 目 自 由 選 択 科 目 4 単 位 必 要 修 得 単 位 数 22 単 位
	フレッシュマンイングリッシュ II A	1	1			
	フレッシュマンイングリッシュ I B	1	1			
	フレッシュマンイングリッシュ II B	1	1			
	物理学	1	2			
	基礎化学	1	2			
	数学 I	1	2			
	数学 II	1	2			
	統計学	1	1			
	身体運動科学	1	2			
	命と倫理	1	2			
	情報科学	1			1	
	科学演習	1	1			
	英語コミュニケーション I	2	1			
	英語コミュニケーション II	2	1			
	英語コミュニケーション III	2			1	
	英語コミュニケーション IV	2			1	
薬学英語	3	2				
海外研修英語				1		
区分	授業科目	開講学年	必修科目	選択科目	自由選 択科目	備 考
薬 学 共 通 課 目 程	薬学概論	1	2			共 通 専 門 科 目 必 修 科 目 70 単 位 選 択 科 目 0 単 位 自 由 選 択 科 目 0 単 位 必 要 修 得 単 位 数 70 単 位
	無機化学	1	2			
	有機化学 I	1	2			
	物理化学 I	1	2			
	物理化学 II	1	2			
	分析化学 I	1	2			
	分析化学 II	1	2			
	生物化学 I	1	2			
	生物化学 II	1	2			
	公衆衛生学	1	2			
	機能形態生理学 I	1	2			
	有機化学 II	2	2			
	有機化学 III	2	2			
	有機化学 IV	2	2			
	生薬学	2	2			
	物理化学 III	2	2			
	生物物理化学	2	1			
	生物化学 III	2	2			
	生物化学 IV	2	2			
	微生物学	2	2			
	免疫学	2	2			
	衛生薬学 I	2	2			
	衛生薬学 II	2	2			
	放射化学	2	1			
	機能形態生理学 II	2	2			
	機能形態生理学 III	2	2			
	薬理学 I	2	2			
	薬理学 II	2	2			
	製剤学	2	2			
	薬剤学	2	1			
薬物動態学 I	2	2				
薬品分析化学	3	2				
創薬科学	3	2				
薬理学 III	3	2				
薬理学 IV	3	2				
毒性学	3	2				
医薬品安全性学	3	1				

区分	授業科目	開講学年	必修科目	選択科目	自由選択科目	備考
薬学 共通課程	共通専門実習科目 早期体験学習 物理系薬学実習 生物系薬学実習Ⅰ 化学系薬学実習Ⅰ 生物系薬学実習Ⅱ 化学系薬学実習Ⅱ 医療系・生物系薬学実習 薬剤系薬学実習 医用工学実習	1~2	1			共通専門実習科目 必修科目 12単位 自由選択科目 12.5単位 必要修得単位数 12単位
		2	1.5			
		2	1.5			
		2	1			
		2	2			
		2	2			
		3	1.5			
		3	1.5			
薬学 科専門課程	薬学科専門科目 臨床検査学 医薬化学 有機合成論 薬品製造論 微生物薬品学 漢方薬学 遺伝子工学 糖鎖生物学 薬物動態学Ⅱ 薬物療法学Ⅰ 薬物療法学Ⅱ 疾患学Ⅰ 疾患学Ⅱ 創剤工学 薬学と社会Ⅰ 医薬品情報学Ⅰ 医薬品情報学Ⅱ 遺伝子診断学 生物統計学 筋生理学 医薬品製造開発論 薬学と社会Ⅱ 医薬品情報学Ⅲ 医療とコミュニケーション学 臨床薬物動態学 薬物療法学Ⅲ 疾患学Ⅲ 調剤学 症候学 臨床医学総論 医用工学概論 臨床検査総論 臨床生理学 医動物学 イグリッシュリサーチプレゼンテーション	2	2			薬学科専門科目 必修科目 31単位 選択科目 10単位 自由選択科目 8単位 必要修得単位数 35単位 (選択科目で4単位必要)
		3		1		
		3		1		
		3		1		
		3	2			
		3		1		
		3	2			
		3	2			
		3	2			
		3	2			
		3	1			
		3	1			
		3	1			
		3	1			
薬学 科専門実習科目	臨床薬学演習Ⅰ 臨床薬学演習Ⅱ 臨床薬学演習Ⅲ 臨床薬学演習Ⅳ 総合薬学演習 実務事前実習 病院実務実習 薬局実務実習 総合薬学研究 静岡救命連携演習 アドバンスト実務実習-地域医療 アドバンスト実務実習-国際医療 アドバンスト実務実習-臨床薬学	4		1		薬学科専門 実習科目 必修科目 47.0単位 選択科目 0単位 自由選択科目 3単位 必要修得単位数 47単位
		4		1		
		4	1			
		4	1			
		4	1			
		4	2			
		4	2			
		4	2			
		4	2			
		4		1		
		4			2	
		4			2	
		4			2	
		4			2	
4~6			1			

(最低卒業必要修得単位数)
194単位

<2022（令和4）年度～2023（令和5）年度入学者用>

カリキュラム科目表（基礎科目）両学科共通

薬学科（6年制）					薬科学科（4年制）				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
フレッシュマンイングリッシュⅠA	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅠA	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅡA	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅡA	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅠB	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅠB	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅡB	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅡB	1	1		
物理学	1	2			物理学	1	2		
基礎化学	1	2			基礎化学	1	2		
数学Ⅰ	1	2			数学Ⅰ	1	2		
数学Ⅱ	1	2			数学Ⅱ	1	2		
統計学	1	1			統計学	1	1		
身体運動科学	1	2			身体運動科学	1	2		
命と倫理	1	2			命と倫理	1	2		
情報科学	1			1	情報科学	1			1
科学演習	1	1			科学演習	1	1		
英語コミュニケーションⅠ	2	1			英語コミュニケーションⅠ	2	1		
英語コミュニケーションⅡ	2	1			英語コミュニケーションⅡ	2	1		
英語コミュニケーションⅢ	2			1	英語コミュニケーションⅢ	2			1
英語コミュニケーションⅣ	2			1	英語コミュニケーションⅣ	2			1
薬学英语	3	2			薬学英语	3	2		
海外英語研修				1	海外英語研修				1

<2022（令和4）年度～2023（令和5）年度入学者用>

カリキュラム科目表（専門科目）

薬学科（6年制）					薬科学科（4年制）				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
薬学概論	1	2			薬学概論	1	2		
無機化学	1	2			無機化学	1	2		
有機化学Ⅰ	1	2			有機化学Ⅰ	1	2		
物理化学Ⅰ	1	2			物理化学Ⅰ	1	2		
物理化学Ⅱ	1	2			物理化学Ⅱ	1	2		
分析化学Ⅰ	1	2			分析化学Ⅰ	1	2		
分析化学Ⅱ	1	2			分析化学Ⅱ	1	2		
生物化学Ⅰ	1	2			生物化学Ⅰ	1	2		
生物化学Ⅱ	1	2			生物化学Ⅱ	1	2		
公衆衛生学	1	2			公衆衛生学	1	2		
機能形態生理学Ⅰ	1	2			機能形態生理学Ⅰ	1	2		
早期体験学習	1～2	1			早期体験学習	1～2	1		
有機化学Ⅱ	2	2			有機化学Ⅱ	2	2		
有機化学Ⅲ	2	2			有機化学Ⅲ	2	2		
有機化学Ⅳ	2	2			有機化学Ⅳ	2	2		
生薬学	2	2			生薬学	2	2		
物理化学Ⅲ	2	2			物理化学Ⅲ	2	2		
生物物理化学	2	1			生物物理化学	2	1		
生物化学Ⅲ	2	2			生物化学Ⅲ	2	2		
生物化学Ⅳ	2	2			生物化学Ⅳ	2	2		
微生物学	2	2			微生物学	2	2		
免疫学	2	2			免疫学	2	2		
衛生薬学Ⅰ	2	2			衛生薬学Ⅰ	2	2		
衛生薬学Ⅱ	2	2			衛生薬学Ⅱ	2	2		
放射化学	2	1			放射化学	2	1		
機能形態生理学Ⅱ	2	2			機能形態生理学Ⅱ	2	2		
機能形態生理学Ⅲ	2	2			機能形態生理学Ⅲ	2	2		
薬理学Ⅰ	2	2			薬理学Ⅰ	2	2		
薬理学Ⅱ	2	2			薬理学Ⅱ	2	2		
製剤学	2	2			製剤学	2	2		
薬剤学	2	1			薬剤学	2	1		
薬物動態学Ⅰ	2	2			薬物動態学Ⅰ	2	2		
臨床検査学	2	2			臨床検査学	2		2	
物理系薬学実習	2	1.5			物理系薬学実習	2	1.5		
生物系薬学実習Ⅰ	2	1.5			生物系薬学実習Ⅰ	2	1.5		
化学系薬学実習Ⅰ	2	1			化学系薬学実習Ⅰ	2	1		
生物系薬学実習Ⅱ	2	2			生物系薬学実習Ⅱ	2	2		
化学系薬学実習Ⅱ	2	2			化学系薬学実習Ⅱ	2	2		
薬品分析化学	3	2			薬品分析化学	3	2		
創薬科学	3	2			創薬科学	3	2		
薬理学Ⅲ	3	2			薬理学Ⅲ	3	2		
薬理学Ⅳ	3	2			薬理学Ⅳ	3	2		

薬学科（6年制）					薬科学科（4年制）				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
毒性学	3	2			毒性学	3	2		
医薬品安全性学	3	1			医薬品安全性学	3	1		
医療系・生物系薬学実習	3	1.5			医療系・生物系薬学実習	3	1.5		
薬剤系薬学実習	3	1.5			薬剤系薬学実習	3	1.5		
医用工学実習	3			0.5	医用工学実習	3			0.5
					臨床検査事前臨地実習	3~4			1
					生理検査学に関する臨床検査 臨地実習	3~4			3
					生理検査学以外の臨床検査臨 地実習	3~4			8
医薬化学	3		1		医薬化学	3		1	
有機合成論	3		1		有機合成論	3		1	
薬品製造論	3		1		薬品製造論	3		1	
微生物薬品学	3		1		微生物薬品学	3		1	
漢方薬学	3	2			漢方薬学	3		2	
遺伝子工学	3		1		遺伝子工学	3		1	
糖鎖生物学	3		1		糖鎖生物学	3		1	
薬物動態学Ⅱ	3	2			薬物動態学Ⅱ	3		2	
薬物療法学Ⅰ	3	2			薬物療法学Ⅰ	3		2	
薬物療法学Ⅱ	3	2			薬物療法学Ⅱ	3		2	
疾患学Ⅰ	3	2			疾患学Ⅰ	3		2	
疾患学Ⅱ	3	2			疾患学Ⅱ	3		2	
創剤工学	3		1		創剤工学	3		1	
薬学と社会Ⅰ	3	1			薬学と社会Ⅰ	3			1
医薬品情報学Ⅰ	3	1			医薬品情報学Ⅰ	3		1	
医薬品情報学Ⅱ	3	1			医薬品情報学Ⅱ	3		1	
遺伝子診断学	3	1			遺伝子診断学	3		1	
生物統計学	3		1		生物統計学	3		1	
筋生理学	3		1		筋生理学	3		1	
医薬品製造開発論	4		1		医薬品製造開発論	4		1	
薬学と社会Ⅱ	4	1			薬学と社会Ⅱ	4			1
医薬品情報学Ⅲ	4	1			医薬品情報学Ⅲ	4			1
医療とコミュニケーション学	4	1			医療とコミュニケーション学	4			1
臨床薬物動態学	4	1			臨床薬物動態学	4		1	
薬物療法学Ⅲ	4	2			薬物療法学Ⅲ	4		2	
疾患学Ⅲ	4	2			疾患学Ⅲ	4		2	
調剤学	4	2			調剤学	4			2
症候学	4	2							
臨床医学総論	4		1		臨床医学総論	4		1	
医用工学概論	4			2	医用工学概論	4			2
臨床検査総論	4			2	臨床検査総論	4			2
臨床生理学	4			2	臨床生理学	4			2
医動物学	3			1	医動物学	3			1
イグレッジ リサーチ プレゼンテーション	4~6			1	イグレッジ リサーチ プレゼンテーション	4			1

薬学科（6年制）					薬科学科（4年制）				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
総合薬学研究	3～6	15			総合薬科学研究	3～4	10		
臨床薬学演習	1～6	3							
総合薬学演習	4～6	3							
実務事前実習（5週間）	3～4	3							
病院実務実習（11週間）	5	10							
薬局実務実習（11週間）	5	10							
静岡救命連携演習	5～6	2							
アドバンスト実務実習-地域医療	5～6			1					
アドバンスト実務実習-国際医療	5～6			1					
アドバンスト実務実習-臨床薬学	5～6			1					

＜2018（平成30）年度～2021（令和3）年度入学者用＞
カリキュラム科目表（基礎科目）両学科共通

薬学科（6年制）					薬科学科（4年制）				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
フレッシュマンイングリッシュⅠA	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅠA	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅡA	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅡA	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅠB	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅠB	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅡB	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅡB	1	1		
物理学	1	2			物理学	1	2		
基礎化学	1	2			基礎化学	1	2		
数学Ⅰ	1	2			数学Ⅰ	1	2		
数学Ⅱ	1	2			数学Ⅱ	1	2		
統計学	1	1			統計学	1	1		
身体運動科学	1	2			身体運動科学	1	2		
命と倫理	1	2			命と倫理	1	2		
情報科学	1			1	情報科学	1			1
科学演習	1	1			科学演習	1	1		
英語コミュニケーションⅠ	2	1			英語コミュニケーションⅠ	2	1		
英語コミュニケーションⅡ	2	1			英語コミュニケーションⅡ	2	1		
英語コミュニケーションⅢ	2			1	英語コミュニケーションⅢ	2			1
英語コミュニケーションⅣ	2			1	英語コミュニケーションⅣ	2			1
薬学英语	3	2			薬学英语	3	2		
海外英語研修				1	海外英語研修				1

＜2018（平成30）年度～2021（令和3）年度入学者用＞
カリキュラム科目表（専門科目）

薬学科（6年制）					薬科学科（4年制）				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
薬学概論	1	2			薬学概論	1	2		
無機化学	1	2			無機化学	1	2		
有機化学Ⅰ	1	2			有機化学Ⅰ	1	2		
物理化学Ⅰ	1	2			物理化学Ⅰ	1	2		
物理化学Ⅱ	1	2			物理化学Ⅱ	1	2		
分析化学Ⅰ	1	2			分析化学Ⅰ	1	2		
分析化学Ⅱ	1	2			分析化学Ⅱ	1	2		
生物化学Ⅰ	1	2			生物化学Ⅰ	1	2		
生物化学Ⅱ	1	2			生物化学Ⅱ	1	2		
公衆衛生学	1	2			公衆衛生学	1	2		
機能形態生理学Ⅰ	1	2			機能形態生理学Ⅰ	1	2		
早期体験学習	1～2	1			早期体験学習	1～2	1		
有機化学Ⅱ	2	2			有機化学Ⅱ	2	2		
有機化学Ⅲ	2	2			有機化学Ⅲ	2	2		
有機化学Ⅳ	2	2			有機化学Ⅳ	2	2		
生薬学	2	2			生薬学	2	2		
物理化学Ⅲ	2	2			物理化学Ⅲ	2	2		
生物物理化学	2	1			生物物理化学	2	1		
生物化学Ⅲ	2	2			生物化学Ⅲ	2	2		
生物化学Ⅳ	2	2			生物化学Ⅳ	2	2		
微生物学	2	2			微生物学	2	2		
免疫学	2	2			免疫学	2	2		
衛生薬学Ⅰ	2	2			衛生薬学Ⅰ	2	2		
衛生薬学Ⅱ	2	2			衛生薬学Ⅱ	2	2		
放射化学	2	1			放射化学	2	1		
機能形態生理学Ⅱ	2	2			機能形態生理学Ⅱ	2	2		
機能形態生理学Ⅲ	2	2			機能形態生理学Ⅲ	2	2		
薬理学Ⅰ	2	2			薬理学Ⅰ	2	2		
薬理学Ⅱ	2	2			薬理学Ⅱ	2	2		
製剤学	2	2			製剤学	2	2		
薬剤学	2	1			薬剤学	2	1		
薬物動態学Ⅰ	2	2			薬物動態学Ⅰ	2	2		
物理系薬学実習	2	1.5			物理系薬学実習	2	1.5		
生物系薬学実習Ⅰ	2	1.5			生物系薬学実習Ⅰ	2	1.5		
化学系薬学実習Ⅰ	2	1			化学系薬学実習Ⅰ	2	1		
生物系薬学実習Ⅱ	2	2			生物系薬学実習Ⅱ	2	2		
化学系薬学実習Ⅱ	2	2			化学系薬学実習Ⅱ	2	2		
薬品分析化学	3	2			薬品分析化学	3	2		
創薬科学	3	2			創薬科学	3	2		
薬理学Ⅲ	3	2			薬理学Ⅲ	3	2		
薬理学Ⅳ	3	2			薬理学Ⅳ	3	2		
毒性学	3	2			毒性学	3	2		
医薬品安全性学	3	1			医薬品安全性学	3	1		

< 2018 (平成30) 年度～2021 (令和3) 年度入学者用 >

薬学科 (6年制)					薬科学科 (4年制)				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
医療系・生物系薬学実習	3	1.5			医療系・生物系薬学実習	3	1.5		
薬剤系薬学実習	3	1.5			薬剤系薬学実習	3	1.5		
医用工学実習	3			0.5	医用工学実習	3			0.5
医薬化学	3		1		医薬化学	3		1	
有機合成論	3		1		有機合成論	3		1	
薬品製造論	3		1		薬品製造論	3		1	
微生物薬品学	3		1		微生物薬品学	3		1	
漢方薬学	3	2			漢方薬学	3		2	
臨床検査学	3	2			臨床検査学	3		2	
遺伝子工学	3		1		遺伝子工学	3		1	
糖鎖生物学	3		1		糖鎖生物学	3		1	
薬物動態学Ⅱ	3	2			薬物動態学Ⅱ	3		2	
薬物療法学Ⅰ	3	2			薬物療法学Ⅰ	3		2	
薬物療法学Ⅱ	3	2			薬物療法学Ⅱ	3		2	
疾患学Ⅰ	3	2			疾患学Ⅰ	3		2	
疾患学Ⅱ	3	2			疾患学Ⅱ	3		2	
創剤工学	3		1		創剤工学	3		1	
薬学と社会Ⅰ	3	1			薬学と社会Ⅰ	3			1
医薬品情報学Ⅰ	3	1			医薬品情報学Ⅰ	3		1	
医薬品情報学Ⅱ	3	1			医薬品情報学Ⅱ	3		1	
遺伝子診断学	3	1			遺伝子診断学	3		1	
生物統計学	3		1		生物統計学	3		1	
医薬品製造開発論	4		1		医薬品製造開発論	4		1	
薬学と社会Ⅱ	4	1			薬学と社会Ⅱ	4			1
医薬品情報学Ⅲ	4	1			医薬品情報学Ⅲ	4			1
医療とコミュニケーション学	4	1			医療とコミュニケーション学	4			1
臨床薬物動態学	4	1			臨床薬物動態学	4		1	
薬物療法学Ⅲ	4	2			薬物療法学Ⅲ	4		2	
疾患学Ⅲ	4	2			疾患学Ⅲ	4		2	
筋生理学	4		1		筋生理学	4		1	
調剤学	4	2			調剤学	4			2
症候学	4	2							
臨床医学総論	4		1		臨床医学総論	4		1	
医用工学概論	4			2	医用工学概論	4			2
臨床検査総論	4			2	臨床検査総論	4			2
臨床生理学	4			2	臨床生理学	4			2
医動物学	4			1	医動物学	4			1
イングリッシュ リサーチ プレゼンテーション	4～6			1	イングリッシュ リサーチ プレゼンテーション	4			1

< 2018 (平成30) 年度～2021 (令和3) 年度入学者用 >

薬学科 (6年制)					薬科学科 (4年制)				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
総合薬学研究	3～6	15			総合薬科学研究	3～4	10		
臨床薬学演習	1～6	3							
総合薬学演習	4～6	3							
実務事前実習 (5週間)	3～4	3							
病院実務実習 (11週間)	5	10							
薬局実務実習 (11週間)	5	10							
静岡救命連携演習	5～6	2							
アドバンスト実務実習-地域医療	5～6			1					
アドバンスト実務実習-国際医療	5～6			1					
アドバンスト実務実習-臨床薬学	5～6			1					

<2016（平成28）、2017（平成29）年度入学者用>

カリキュラム科目表（基礎科目）両学科共通

薬学科（6年制）					薬科学科（4年制）				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
フレッシュマンイングリッシュⅠA	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅠA	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅡA	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅡA	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅠB	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅠB	1	1		
フレッシュマンイングリッシュⅡB	1	1			フレッシュマンイングリッシュⅡB	1	1		
物理学	1	2			物理学	1	2		
基礎化学	1	2			基礎化学	1	2		
生物学	1	2			生物学	1	2		
数学Ⅰ	1	2			数学Ⅰ	1	2		
数学Ⅱ	1	2			数学Ⅱ	1	2		
統計学	1	1			統計学	1	1		
身体運動科学	1	2			身体運動科学	1	2		
命と倫理	1	2			命と倫理	1	2		
基礎生物学	1			1	基礎生物学	1			1
情報科学	1			1	情報科学	1			1
科学演習Ⅰ	1	1			科学演習Ⅰ	1	1		
科学演習Ⅱ	1	1			科学演習Ⅱ	1	1		
英語コミュニケーションⅠ	2	1			英語コミュニケーションⅠ	2	1		
英語コミュニケーションⅡ	2	1			英語コミュニケーションⅡ	2	1		
英語コミュニケーションⅢ	2			1	英語コミュニケーションⅢ	2			1
英語コミュニケーションⅣ	2			1	英語コミュニケーションⅣ	2			1
海外英語研修	2			1	海外英語研修	2			1
薬学英语	3	2			薬学英语	3	2		

<2016 (平成28)、2017 (平成29) 年度入学者用>
カリキュラム科目表 (専門科目)

薬学科 (6年制)					薬科学科 (4年制)				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
薬学概論	1	2			薬学概論	1	2		
無機化学	1	2			無機化学	1	2		
有機化学Ⅰ	1	2			有機化学Ⅰ	1	2		
物理化学Ⅰ	1	2			物理化学Ⅰ	1	2		
物理化学Ⅱ	1	2			物理化学Ⅱ	1	2		
分析化学Ⅰ	1	2			分析化学Ⅰ	1	2		
分析化学Ⅱ	1	2			分析化学Ⅱ	1	2		
生物化学Ⅰ	1	2			生物化学Ⅰ	1	2		
生物化学Ⅱ	1	2			生物化学Ⅱ	1	2		
機能形態生理学Ⅰ	1	2			機能形態生理学Ⅰ	1	2		
早期体験学習	1~2	1			早期体験学習	1~2	1		
有機化学Ⅱ	2	2			有機化学Ⅱ	2	2		
有機化学Ⅲ	2	2			有機化学Ⅲ	2	2		
有機化学Ⅳ	2	2			有機化学Ⅳ	2	2		
生薬学	2	2			生薬学	2	2		
物理化学Ⅲ	2	2			物理化学Ⅲ	2	2		
生物物理化学Ⅰ	2	1			生物物理化学Ⅰ	2	1		
製剤学	2	2			製剤学	2	2		
薬剤学	2	1			薬剤学	2	1		
生物化学Ⅲ	2	2			生物化学Ⅲ	2	2		
生物化学Ⅳ	2	2			生物化学Ⅳ	2	2		
微生物学	2	2			微生物学	2	2		
ウイルス学	2	1			ウイルス学	2	1		
免疫学	2	2			免疫学	2	2		
衛生薬学Ⅰ	2	2			衛生薬学Ⅰ	2	2		
衛生薬学Ⅱ	2	2			衛生薬学Ⅱ	2	2		
公衆衛生学	2	2			公衆衛生学	2	2		
機能形態生理学Ⅱ	2	2			機能形態生理学Ⅱ	2	2		
機能形態生理学Ⅲ	2		1		機能形態生理学Ⅲ	2		1	
薬理学Ⅰ	2	2			薬理学Ⅰ	2	2		
薬理学Ⅱ	2	2			薬理学Ⅱ	2	2		
基礎薬学・医用工学実習	2	2			基礎薬学・医用工学実習	2	2		
物理系薬学実習	2	2			物理系薬学実習	2	2		
生物系薬学実習Ⅰ	2	2			生物系薬学実習Ⅰ	2	2		
化学系薬学実習Ⅰ	2	2			化学系薬学実習Ⅰ	2	2		
有機化学Ⅴ	3	1			有機化学Ⅴ	3	1		
創薬科学	3	2			創薬科学	3	2		
生物物理化学Ⅱ	3		1		生物物理化学Ⅱ	3		1	
微生物薬品学Ⅰ	3	1			微生物薬品学Ⅰ	3	1		
微生物薬品学Ⅱ	3		1		微生物薬品学Ⅱ	3		1	
漢方薬学	3	2			漢方薬学	3		2	
薬品分析化学	3	2			薬品分析化学	3	2		
放射線と医療	3	2			放射線と医療	3	2		
臨床検査学	3	2			臨床検査学	3	2		

<2016 (平成28)、2017 (平成29) 年度入学者用>

薬学科 (6年制)					薬科学科 (4年制)				
授業科目	配当年次	単位数			授業科目	配当年次	単位数		
		必修	選択	自由選択			必修	選択	自由選択
遺伝子診断学	3	1			遺伝子診断学	3	1		
創剤工学	3		1		創剤工学	3		1	
抗体工学	3		1		抗体工学	3		1	
遺伝子工学	3	1			遺伝子工学	3	1		
薬理学Ⅲ	3	2			薬理学Ⅲ	3	2		
薬物動態学Ⅰ	3	2			薬物動態学Ⅰ	3	2		
薬物動態学Ⅱ	3	2			薬物動態学Ⅱ	3		2	
薬物療法学Ⅰ	3	2			薬物療法学Ⅰ	3		2	
薬物療法学Ⅱ	3	2			薬物療法学Ⅱ	3			2
毒性学	3	2			毒性学	3	2		
医薬品安全性学	3	1			医薬品安全性学	3	1		
疾患学Ⅰ	3	2			疾患学Ⅰ	3			2
疾患学Ⅱ	3	2			疾患学Ⅱ	3			2
薬学と社会	3	2			薬学と社会	3			2
医薬品情報学Ⅰ	3	1			医薬品情報学Ⅰ	3		1	
医薬品情報学Ⅱ	3	1			医薬品情報学Ⅱ	3			1
生物系薬学実習Ⅱ	3	2			生物系薬学実習Ⅱ	3	2		
化学系薬学実習Ⅱ	3	2			化学系薬学実習Ⅱ	3	2		
有機化学演習	3	1			有機化学演習	3	1		
医療系薬学実習	3	3			医療系薬学実習	3	3		
薬品製造論	4		1		薬品製造論	4		1	
有機合成論	4		1		有機合成論	4		1	
医薬品情報学Ⅲ	4	1			医薬品情報学Ⅲ	4			1
医療とコミュニケーション学	4	1			医療とコミュニケーション学	4		1	
糖鎖生物学	4		1		糖鎖生物学	4		1	
臨床薬物動態学	4	1			臨床薬物動態学	4			1
薬物療法学Ⅲ	4	2			薬物療法学Ⅲ	4			2
疾患学Ⅲ	4	2			疾患学Ⅲ	4			2
調剤学	4	2			調剤学	4			2
臨床医学総論	4		1		臨床医学総論	4		1	
医用工学概論	4			2	医用工学概論	4			2
臨床検査総論	4			2	臨床検査総論	4			2
臨床生理学	4			2	臨床生理学	4			2
生物学的試験法	4		1		生物学的試験法	4		1	
有機反応論	4		1		有機反応論	4		1	
医動物学	4			1	医動物学	4			1
イングリッシュ リサーチ プレゼンテーション	4~6			1	イングリッシュ リサーチ プレゼンテーション	4			1
総合薬学研究	4~6	10			総合薬科学研究	4	10		
臨床薬学演習	4~6	3							
総合薬学演習	4~6	3							
実務事前実習 (5週間)	4	3							
病院実務実習 (11週間)	5	10							
薬局実務実習 (11週間)	5	10							
静岡救命連携演習	5~6	2							
アドバンスト実務実習-地域医療	5~6			1					
アドバンスト実務実習-国際医療	5~6			1					
アドバンスト実務実習-臨床薬学	5~6			1					

英語科目評価表(令和5年度以降入学生)

※この評価表は、学部の英語TOEIC系科目で適用されます。

【英語科目の評価方法】

○1・2年共通

教員授業評価は、2/3以上の出席がある学生に対して行い、課題や演習、期末試験点数を総合して算出。
教員授業評価が60%未満の場合は一律「不可」。

◆1年前期

TOEIC-IP受験も必須。レベル別評価表(①)による教員授業評価(レベル分けなし、一律Highレベル)とTOEIC-IPスコアを元に、クロス判定表(②)を使用して最終評価を行う。

◆1年後期と2年前期

TOEIC-IP 受験も必須。レベル別評価表(①)による教員授業評価と TOEIC-IP スコアを元に、クロス判定表(②)を使用して最終評価を行う。

◆2年後期

レベル別評価表(①)を使用して、教員授業評価(=最終評価)を行う。(TOEIC-IP 受験なし)

【①レベル別評価表(教員授業評価)】

レベル/授業評価	A	B	C	D	E(不可)
Advanced	100-85	84-75	74-65	64-60	59以下
High	100-90	89-80	79-70	69-60	59以下
Middle	100-95	94-85	84-70	69-60	59以下
Low		100-90	89-75	74-60	59以下

【②クロス判定表】

1年生 (TOEIC-IPスコアが400点未満でも救済可)

英語科目		TOEIC-IPスコア						
		670以上	600以上	550以上	470以上	400以上	400未満	未受験
教員授業評価	A	秀(100)	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	不可
	B	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	不可
	C	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(60)	不可
	D	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(60)	不可	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

2年生 (TOEIC-IPスコアが400点未満または未受験の場合は評価が「不可」)

英語科目		TOEIC-IPスコア						
		730以上	670以上	600以上	550以上	470以上	400以上	400未満・未受験
教員授業評価	A	秀(100)	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	不可
	B	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	不可
	C	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(65)	不可
	D	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(65)	可(60)	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

英語科目評価表(令和4年度以前入学生)

※この評価表は、学部の英語TOEIC系科目で適用されます。

【英語科目の評価方法】

○1・2年共通

教員授業評価は、2/3以上の出席がある学生に対して行い、課題や演習、期末試験点数を総合して算出。
教員授業評価が60%未満の場合は一律「不可」。

◆1年前期

TOEIC-IP受験も必須。レベル別評価表(①)による教員授業評価(レベル分けなし、一律Highレベル)とTOEIC-IPスコアを元に、クロス判定表(②)を使用して最終評価を行う。

◆1年後期と2年前期

TOEIC-IP 受験も必須。レベル別評価表(①)による教員授業評価と TOEIC-IP スコアを元に、クロス判定表(②)を使用して最終評価を行う。

◆2年後期

レベル別評価表(①)を使用して、教員授業評価(=最終評価)を行う。(TOEIC-IP 受験なし)

【①レベル別評価表(教員授業評価)】

レベル/授業評価	A	B	C	D	E(不可)
Advanced	100-85	84-75	74-65	64-60	59以下
High	100-90	89-80	79-70	69-60	59以下
Middle	100-95	94-85	84-70	69-60	59以下
Low		100-90	89-75	74-60	59以下

【②クロス判定表】

1年生 (TOEIC-IPスコアが400点未満でも救済可)

英語科目		TOEIC-IPスコア						
		600以上	550以上	500以上	450以上	400以上	400未満	未受験
教員授業評価	A	秀(100)	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	不可
	B	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	不可
	C	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(60)	不可
	D	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(60)	不可	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

2年生 (TOEIC-IPスコアが400点未満または未受験の場合は評価が「不可」)

英語科目		TOEIC-IPスコア						
		650以上	600以上	550以上	500以上	450以上	400以上	400未満・未受験
教員授業評価	A	秀(100)	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	不可
	B	秀(95)	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	不可
	C	秀(90)	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(65)	不可
	D	優(85)	優(80)	良(75)	良(70)	可(65)	可(60)	不可
	E	不可	不可	不可	不可	不可	不可	不可

【実務経験のある教員による科目】

令和6年度

＜教養科目＞

科目名	教員氏名	単位数
情報検索実習	六井淳	2
ヒューマン・ケア	飯島本子	2
TOEFL留学英語I	小田透	1
TOEFL留学英語II	小田透	1
自然科学概論	近藤啓	2
生物学入門	浅井知浩、南彰	2
薬剤発達史入門	賀川義之ほか4名	2
公共政策入門	藤本健太郎	2
生涯発達心理入門	篁宗一、保坂利男ほか3名、特別講師2名	2
知的財産管理入門	居藤洋之	1
環境科学入門	原清敬	2
くらしと化学A	近藤啓	1
くらしと化学B	近藤啓	1
言語の学習・習得IIA	藤森敦之	1
言語の学習・習得IIB	藤森敦之	1
英語で学ぶ日本語学IA	藤森敦之	1
英語で学ぶ日本語学IB	藤森敦之	1
静岡の健康長寿を支える取り組みと人々	森本達也、富安真理ほか3名、特別講師6名	2
静岡の防災と医療	森本達也ほか特別講師10名	2
静岡地域食材学A	特別講師5名	1
静岡地域食材学B	江口智美ほか3名、特別講師3名	1
茶学入門	中村順行ほか特別講師9名	2
ムセイオン静岡－MUSEUMと文化A	特別講師2名	1
ムセイオン静岡－MUSEUMと文化B		1
ムセイオン静岡－世界の文化遺産A	特別講師2名	1
ムセイオン静岡－世界の文化遺産B		1
ムセイオン静岡－舞台芸術A	特別講師1名	1
ムセイオン静岡－舞台芸術B		1
新聞でもっと静岡を知ろう	上原克仁・静岡新聞記者	2
企業経営者に学ぶ静岡のビジネス最前線	上原克仁・静岡県内企業経営者	2
静岡「知」各論－食品環境科学と地域企業の視点から－	特別講師4名	2
SDGs概論	孫暁剛ほか7名	2
ふじのくに学(お茶)	中村順行、ステファン・ダントン	2
ふじのくに学(観光学)	北上真一、飯倉清太	1
ふじのくに学(演劇論)	宮城聰(静岡英和学院大学)	2
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーション)	小泉祐一郎、永井隆太郎(静岡大学)	2
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションⅡ)	小泉祐一郎、永井隆太郎(静岡大学)	2
ふじのくに学(静岡県の産業イノベーションⅢ)	小泉祐一郎、永井隆太郎(静岡大学)	3
ジャーナリズム論	西恭之、小川和久	2
合計		61

【実務経験のある教員による科目】

薬科学科

<学部共通科目>

科目名	教員氏名	単位数
フレッシュマンイングリッシュⅠA	小田 透、ほか1名	1
フレッシュマンイングリッシュⅠB	小田 透、ほか1名	1
統計学	山田 浩、ほか1名	1
命と倫理	松田純	2
英語コミュニケーションⅠ	L. Knowles ほか3名	1
英語コミュニケーションⅡ	*J. Lawrence ほか3名	1
英語コミュニケーションⅢ	*J. Lawrence ほか2名	1
英語コミュニケーションⅣ	*J. Lawrence ほか2名	1
学部共通科目単位数合計		9

<薬科学科専門科目>

科目名	教員氏名	単位数
薬学概論	眞鍋 敬、ほか10名	2
無機化学	岩本憲人	2
生物化学Ⅰ	浅井知浩	2
生物化学Ⅱ	浅井知浩	2
物理化学Ⅲ	近藤 啓、ほか1名	2
放射化学	浅井知浩	1
製剤学	近藤 啓、照喜名孝之	2
薬剤学	尾上誠良、ほか1名	1
薬物動態学Ⅰ	尾上誠良、ほか1名	2
薬品分析化学	轟木堅一郎、ほか2名	2
創薬科学	浅井章良、ほか2名	2
薬物動態学Ⅱ	尾上誠良	2
医薬品安全性学	賀川義之	1
疾患学Ⅰ	森本達也、山田浩	2
疾患学Ⅱ	森本達也、ほか3名	2
創剤工学	近藤啓	1
薬学と社会Ⅰ	賀川義之	1
医薬品情報学Ⅰ	賀川義之	1
医薬品情報学Ⅱ	山田浩 他1名	1
遺伝子診断学	伊藤邦彦、井上和幸	1
薬学と社会Ⅱ	賀川義之	1
医薬品情報学Ⅲ	山田浩 他1名	1
医療とコミュニケーション学	内田信也 他3名	1
臨床薬物動態学	伊藤邦彦、井上和幸	1
薬物療法学Ⅲ	伊藤邦彦、井上和幸	2
疾患学Ⅲ	森本達也、山田浩	2
調剤学	賀川義之、伊藤邦彦	2
臨床検査総論	樋口まり子	2
臨床生理学	濱田悦子 他2名	2
薬科学科専門科目単位数合計		46

【実務経験のある教員による科目】

薬学科

<学部共通科目>

科目名	教員氏名	単位数
フレッシュマンイングリッシュ I A	小田 透、ほか1名	1
フレッシュマンイングリッシュ I B	小田 透、ほか1名	1
統計学	山田 浩、ほか1名	1
命と倫理	松田純	2
英語コミュニケーション I	L. Knowles ほか3名	1
英語コミュニケーション II	*J. Lawrence ほか3名	1
英語コミュニケーション III	*J. Lawrence ほか2名	1
英語コミュニケーション IV	*J. Lawrence ほか2名	1
学部共通科目単位数合計		9

<薬学科専門科目>

科目名	教員氏名	単位数
薬学概論	眞鍋 敬、ほか10名	2
無機化学	岩本憲人	2
生物化学 I	浅井知浩	2
生物化学 II	浅井知浩	2
物理化学 III	近藤 啓、ほか1名	2
放射化学	浅井知浩	1
製剤学	近藤 啓、照喜名孝之	2
薬剤学	尾上誠良、ほか1名	1
薬物動態学 I	尾上誠良、ほか1名	2
薬品分析化学	轟木堅一郎、ほか2名	2
創薬科学	浅井章良、ほか2名	2
薬物動態学 II	尾上誠良	2
医薬品安全性学	賀川義之	1
疾患学 I	森本達也、山田浩	2
疾患学 II	森本達也、ほか3名	2
創剤工学	近藤啓	1
薬学と社会 I	賀川義之	1
医薬品情報学 I	賀川義之	1
医薬品情報学 II	山田浩 他1名	1
遺伝子診断学	伊藤邦彦、井上和幸	1
薬学と社会 II	賀川義之	1
医薬品情報学 III	山田浩 他1名	1
医療とコミュニケーション学	内田信也 他3名	1
臨床薬物動態学	伊藤邦彦、井上和幸	1
薬物療法学 III	伊藤邦彦、井上和幸	2
疾患学 III	森本達也、山田浩	2
調剤学	賀川義之、伊藤邦彦	2
症候学	内田信也 他8名	2
臨床検査総論	樋口まり子	2
臨床生理学	濱田悦子 他2名	2
薬学科専門科目単位数合計		48

研究室別研究題目

研究室別研究題目

◎医薬品化学分野

- ・ 安全・簡便に実施可能な化学合成法の開発研究
- ・ 短工程化学合成を実現する触媒反応の開発研究
- ・ 新規機能性物質・生物活性物質の創製研究
- ・ 有機化学反応機構の解明に関する研究

◎生体機能分子分析学分野

- ・ 次世代バイオ医薬品の新規分析法開発
- ・ オミクス解析のための新規分析ツールの開発
- ・ 超微量成分の高感度・高精度分析法の開発
- ・ 単一細胞メタボロミクスの開発

◎生化学分野

- ・ 糖鎖による Notch シグナル調節メカニズムの解明とその薬学的応用
- ・ ウイルス感染増殖における複合糖鎖の機能解明と抗ウイルス剤の開発
- ・ 脳における糖鎖の機能解明
- ・ 糖鎖修飾による幹細胞制御機構の解明と再生医療応用

◎衛生分子毒性学分野

- ・ 薬物代謝酵素の発現変動機序の解明および薬物間相互作用に関する研究
- ・ 異物応答性核内受容体の生理学的・毒性学的役割の解明
- ・ 薬剤性肝障害・肝発がんの機序解明と新規治療法の開発
- ・ 化学物質の安全性評価系・動物実験代替法の開発

◎生薬学分野

- ・ 植物分子・細胞工学的手法を用いた薬用植物の有用物質生産と生合成研究
- ・ 生理活性高極性配糖体を含む植物の医薬品資源的研究
- ・ コレステロール生合成に関与する酵素の生物有機化学
- ・ 生物試験法を指標とする生理活性天然物の探索

◎免疫微生物学分野

- ・ 粘膜組織における免疫系の機能解析
- ・ 免疫細胞に作用する代謝分子とその受容体 (GPCR) の機能解明
- ・ 病原性細菌に対する宿主防御機構の解析
- ・ 知覚神経受容体刺激による化学物質アレルギー促進機構の解明

◎生命物理化学分野

- ・ X線結晶構造解析による疾患関連タンパク質などの構造機能解析と創薬基盤研究
- ・ DNA 損傷応答やゲノムの安定性に関わるタンパク質の構造生物学的研究
- ・ 染色体の構造形成に関わるタンパク質の X線結晶構造解析と機能相関研究
- ・ がん細胞の増殖を制御するタンパク質の構造と機能の解明

◎統合生理学分野

- ・ 骨格筋幹細胞にて機能する膜張力感知イオンチャネル群に関する研究
- ・ メカノバイオロジーを基軸とした、神経筋疾患に対する治療戦略の構築
- ・ 脂質二重膜間における脂質輸送機構とその意義解明に関する研究
- ・ 亜鉛シグナリングを介した脳神経機能調節に関する研究

◎医薬品製造化学分野

- ・ 元素・結合・反応場の特性を活用する触媒設計指針と有用官能基導入法の開発
- ・ 高活性・高選択性を実現する分子メカニズムの解明
- ・ 生物活性化合物の分子科学：有用分子プローブの創製と生命科学への展開
- ・ 医薬品として期待される生物活性を有する天然有機化合物の全合成

◎創剤科学分野

- ・ 粒子設計ならびに製剤製造プロセスに関する研究
- ・ 新規な製剤物性評価法の開発に関する研究
- ・ 分散系及び機能性高分子を用いた微粒子製剤の物理化学的特性に関する研究
- ・ 多様なモダリティーに対応する新規 DDS (Drug Delivery System)に関する研究

◎医薬生命化学分野

- ・ リポソーム DDS に関する基礎研究
- ・ 核酸医薬開発におけるナノ DDS 研究
- ・ がんの診断・治療への応用を目指したナノ DDS 研究
- ・ 高機能化ナノ粒子の設計と研究開発

◎医薬品創製化学分野

- ・ 医薬品合成に資する触媒反応と不斉合成に関する研究
- ・ 有機フッ素化合物の合成法と応用に関する研究
- ・ 光エネルギーを駆動力とする新規分子変換反応の開発
- ・ 生体関連機能性分子の創製に関する研究

◎臨床薬剤学分野

- ・ 認知症の中核/周辺症状改善を志向した臨床薬物動態研究
- ・ 薬物間相互作用の発現様式解明を志向した臨床薬物動態研究
- ・ 皮膚疾患に対する経皮吸収改善剤の開発を志向した臨床製剤研究
- ・ 新規インスリン放出坐剤の開発を志向した臨床製剤研究

◎生体情報分子解析学分野

- ・ 性差医療の基盤となるイオンチャネル・トランスポーターに関する研究
- ・ ヒト iPS 細胞とインシリコを用いた心毒性評価法に関する研究
- ・ 敗血症における心筋・骨格筋応答と性差発生機構に関する研究
- ・ 脂肪幹細胞の未熟性の維持機構と肥満の個人差に関する研究

◎分子病態学分野

- ・ 心不全発症における心筋細胞核内情報伝達機構に関する研究
- ・ クロマチンリモデリングの研究と新規心不全治療の開発
- ・ 天然物による生活習慣病改善に関する研究
- ・ 心血管疾患のバイオマーカーに関する研究

◎薬剤学分野

- ・ ナノテクノロジーや物性制御を利用した薬物動態・薬効の改善
- ・ 病態下の薬物動態変化解析とその戦略的な回避方法探索
- ・ 経口吸収性と作用を改善した機能性食品素材の新規投与形態開発
- ・ 化合物の物性・動態情報からの副作用リスク予測とその回避方法探索

◎薬理学分野

- ・ インスリン顆粒の動態制御に関与する細胞内情報伝達機構の解析
- ・ インスリン分泌と膵 β 細胞量の調節を標的とした糖尿病治療法の開発
- ・ 肝星細胞の活性化と脱活性化の制御に関わる細胞内情報伝達機構の解析
- ・ 糖尿病及び肝線維症発症に関与する細胞内情報伝達機構の解析と疾病予防への応用

◎臨床薬効解析学分野

- ・ 薬剤応答性に影響する遺伝子多型解析と個別化医療への応用
- ・ 疾患関連遺伝子多型の解析と予防・治療への応用
- ・ 血漿タンパクの網羅的解析による薬効・副作用モニタリング
- ・ 診断・治療に有用なヒト型抗体医薬の開発

◎実践薬学分野

- ・ 患者ベネフィットを追及した臨床製剤学に関する研究
- ・ 菓子様製剤、口腔内崩壊錠、院内製剤の製剤化と臨床評価に関する研究
- ・ 医薬品の個別適正使用を目指した薬物動態・薬物作用解析研究
- ・ 薬剤師業務のアウトカム評価と新たな業務の発見・創出に関する研究

◎創薬探索センター

- ・ シグナル伝達や腫瘍免疫に着目した創薬スクリーニングシステムの開発
- ・ 新規抗がん剤の創製を目的としたリード探索と構造最適化研究
- ・ 医薬候補物質の作用機序解析とバイオマーカー探索
- ・ 低分子化合物を用いた細胞内ネットワークの解析と制御

臨床検査技師国家試験
関 連 科 目

臨床検査技師国家試験関連授業科目表 <2023(令和5)年度入学者 薬学科用>

2023(令和5)年度の薬学科入学者は、臨床検査技師国家試験受験資格を得るためには、厚生労働省の指定する検体検査、生理学的検査、採血及び検体採取に関する科目を修める必要がある。そのために本学においては、下表に示す科目を修める必要がある。

1) 基礎科目

授業科目	授業年次	必修単位	備考
統計学	1	1	
命と倫理	1	2	
科学演習	1	2	

2) 共通専門科目

授業科目	授業年次	必修単位	備考
薬学概論	1	2	
公衆衛生学	1	2	
生物化学Ⅰ	1	2	
生物化学Ⅱ	1	2	
生物化学Ⅲ	2	2	
生物化学Ⅳ	2	2	
物理化学Ⅲ	2	2	
機能形態生理学Ⅰ	1	2	
機能形態生理学Ⅱ	2	2	
機能形態生理学Ⅲ	2	2	
薬理学Ⅱ	2	2	
薬理学Ⅳ	3	2	
衛生薬学Ⅰ	2	2	
衛生薬学Ⅱ	2	2	
微生物学	2	2	
免疫学	2	2	
薬物動態学Ⅰ	2	2	
放射化学	2	1	
薬品分析化学	3	2	
毒性学	3	2	
医薬品安全性学	3	1	

3) 共通専門実習科目

授業科目	授業年次	必修単位	備考
早期体験実習	1~2	1	
生物系薬学実習Ⅰ	2	1.5	
生物系薬学実習Ⅱ	2	2	
医療系・生物系薬学実習	3	1.5	
薬剤系薬学実習	3	1.5	
医用工学実習	3	0.5	自由選択科目
臨床検査事前臨地実習	3~4	1	自由選択科目
生理検査学に関する臨床検査臨地実	3~4	3	自由選択科目
生理検査学以外の臨床検査臨地実習	3~4	8	自由選択科目

4) 薬学科専門科目

授業科目	授業年次	必修単位	備考
臨床検査学	3	2	
遺伝子工学	3	1	選択科目
遺伝子診断学	3	1	
薬物療法学Ⅰ	3	2	
薬物療法学Ⅱ	3	2	
薬物療法学Ⅲ	4	2	
疾患学Ⅰ	3	2	
疾患学Ⅱ	3	2	
疾患学Ⅲ	4	2	
筋生理学	4	1	選択科目
臨床薬物動態学	4	1	
薬学と社会Ⅰ	3	1	
臨床医学総論	4	1	選択科目
医用工学概論	4	2	自由選択科目
臨床検査総論	4	2	自由選択科目
臨床生理学	4	2	自由選択科目
医動物学	4	1	自由選択科目

臨床検査技師国家試験関連授業科目表 〈2022(令和4年度以降入学者 薬科学科用)〉

2022(令和4)年度以降の薬科学科入学者は、臨床検査技師国家試験受験資格を得るためには、厚生労働省の指定する検体検査、生理学的検査、採血及び検体採取に関する科目を修める必要がある。そのために本学においては、下表に示す科目を修める必要がある。

1) 基礎科目

授業科目	授業年次	必修単位	備考
統計学	1	1	
命と倫理	1	2	
科学演習	1	2	

2) 共通専門科目

授業科目	授業年次	必修単位	備考
薬学概論	1	2	
公衆衛生学	1	2	
生物化学Ⅰ	1	2	
生物化学Ⅱ	1	2	
生物化学Ⅲ	2	2	
生物化学Ⅳ	2	2	
物理化学Ⅲ	2	2	
機能形態生理学Ⅰ	1	2	
機能形態生理学Ⅱ	2	2	
機能形態生理学Ⅲ	2	2	
薬理学Ⅱ	2	2	
薬理学Ⅳ	3	2	
衛生薬学Ⅰ	2	2	
衛生薬学Ⅱ	2	2	
微生物学	2	2	
免疫学	2	2	
薬物動態学Ⅰ	2	2	
放射化学	2	1	
薬品分析化学	3	2	
毒性学	3	2	
医薬品安全性学	3	1	

3) 共通専門実習科目

授業科目	授業年次	必修単位	備考
早期体験実習	1~2	1	
生物系薬学実習Ⅰ	2	1.5	
生物系薬学実習Ⅱ	2	2	
医療系・生物系薬学実習	3	1.5	
薬剤系薬学実習	3	1.5	
医用工学実習	3	0.5	自由選択科目
臨床検査事前臨地実習	3~4	1	自由選択科目
生理検査学に関する臨床検査臨地実	3~4	3	自由選択科目
生理検査学以外の臨床検査臨地実習	3~4	8	自由選択科目

4) 薬科学科専門科目

授業科目	授業年次	必修単位	備考
臨床検査学	3	2	選択科目
遺伝子工学	3	1	選択科目
遺伝子診断学	3	1	選択科目
薬物療法学Ⅰ	3	2	選択科目
薬物療法学Ⅱ	3	2	選択科目
薬物療法学Ⅲ	4	2	選択科目
疾患学Ⅰ	3	2	選択科目
疾患学Ⅱ	3	2	選択科目
疾患学Ⅲ	4	2	選択科目
筋生理学	4	1	選択科目
臨床薬物動態学	4	1	選択科目
薬学と社会Ⅰ	3	1	自由選択科目
臨床医学総論	4	1	選択科目
医用工学概論	4	2	自由選択科目
臨床検査総論	4	2	自由選択科目
臨床生理学	4	2	自由選択科目
医動物学	4	1	自由選択科目

臨床検査技師国家試験関連授業科目表 ＜2021(令和3)年度以前入学者 薬学科用＞

薬学科では、厚生労働省の指定する6科目(臨床生理学、臨床化学、放射性同位元素検査技術学、医用工学概論、臨床検査総論、医療安全管理学)を修める必要がある。そのために本学においては、下表に示す科目を修める必要がある。

1) 指定科目(必修)

授業科目	授業年次	必修単位	備考
機能形態生理学Ⅰ	1	2	
機能形態生理学Ⅱ	2	2	
薬理学Ⅰ	2	2	
薬理学Ⅱ	2	2	
薬理学Ⅲ	3	2	
分析化学Ⅰ	1	2	
分析化学Ⅱ	1	2	
生物化学Ⅰ	1	2	
生物化学Ⅱ	1	2	
生物化学Ⅲ	2	2	
生物化学Ⅳ	2	2	
放射化学	2	1	
毒性学	3	2	
* 医用工学概論	4	2	(非常勤講師)
* 臨床検査総論	4	2	関係法規を含む(非常勤講師)
臨床検査学	3	2	
微生物学	2	2	
薬品分析化学	3	2	
* 臨床生理学	4	2	(非常勤講師)

2) 指定科目(実習・必修)

授業科目	授業年次	必修単位	
生物系薬学実習Ⅰ	2	1.5	
生物系薬学実習Ⅱ	2	2	
化学系薬学実習Ⅱ	2	2	
物理系薬学実習	2	1.5	
医療系・生物系薬学実習	3	1.5	(臨床実習を含む)
薬剤系薬学実習	3	1.5	(臨床実習を含む)
医用工学実習	3	0.5	

* 臨床検査技師国家試験受験のための開講(卒業要件の単位には算入されない)。

臨床検査技師国家試験関連授業科目表 <2021(令和3)年度以前入学者 薬科学科用>

薬科学科では、厚生労働省の指定する6科目(臨床生理学、臨床化学、放射性同位元素検査技術学、医用工学概論、臨床検査総論、医療安全管理学)および12科目(医学概論、解剖学、生理学、病理学、生化学、微生物学、医動物学、情報科学概論、検査機器総論、医用工学概論、臨床血液学、臨床免疫学)を修める必要がある。そのため、本学においては、下表に示す科目を修める必要がある。

1) 指定科目(必修)

授業科目	授業年次	必修単位	
機能形態生理学Ⅰ	1	2	
機能形態生理学Ⅱ	2	2	
薬理学Ⅰ	2	2	
薬理学Ⅱ	2	2	
薬理学Ⅲ	3	2	
分析化学Ⅰ	1	2	
分析化学Ⅱ	1	2	
生物化学Ⅰ	1	2	
生物化学Ⅱ	1	2	
生物化学Ⅲ	2	2	
生物化学Ⅳ	2	2	
放射化学	2	1	
毒性学	3	2	
* 医用工学概論	4	2	(非常勤講師)
* 臨床検査総論	4	2	関係法規を含む(非常勤講師)
臨床検査学	3	2	
微生物学	2	2	
薬品分析化学	3	2	
* 臨床生理学	4	2	(非常勤講師)
免疫学	2	2	
遺伝子診断学	3	1	
* 医動物学	4	1	(非常勤講師特別講義)
臨床医学総論	4	1	

2) 指定科目(実習・必修)

授業科目	授業年次	必修単位	
生物系薬学実習Ⅰ	2	1.5	
生物系薬学実習Ⅱ	2	2	
化学系薬学実習Ⅱ	2	2	
物理系薬学実習	2	1.5	
医療系・生物系薬学実習	3	1.5	(臨床実習を含む)
薬剤系薬学実習	3	1.5	(臨床実習を含む)
医用工学実習	3	0.5	

* 臨床検査技師国家試験受験のための開講(卒業要件の単位には算入されない)。

